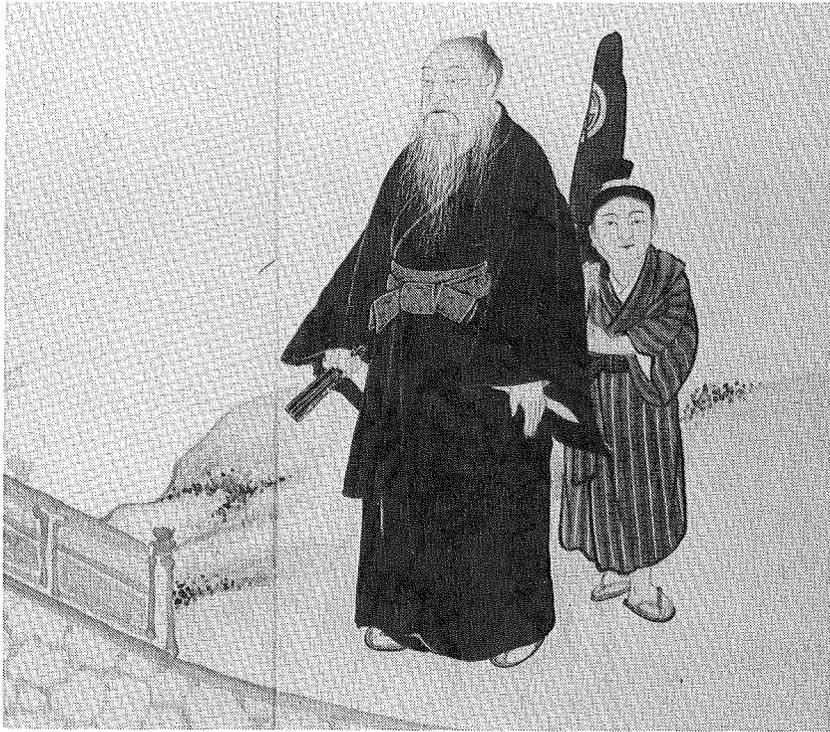


ISSN 0385-0293

沖縄県立博物館年報

No. 27



1994

沖縄県立博物館

序

生涯学習時代を迎え、県民の郷土の自然、歴史、文化に対する関心が高まってきております。このような県民の学習の需要に対し、当博物館では生涯学習の場として、また県民に親しまれる博物館にするため博物館事業の振興・充実に努めてきたところであります。

平成5年度は次のような行事を行いました。

5月中旬から6月初旬にかけて前年度に寄贈、購入、収集した資料を公開する恒例の「新収藏品展」を開催しました。寄贈資料の中にはハワイ在住の伊福盛寿氏からの50点余のコレクションをはじめ、多くの方々からの貴重な資料がありました。イフク・コレクションについては一部を紹介しました。

7月には沖縄特有の織物、芭蕉布の世界をテーマにした企画展「芭蕉布と平良敏子」が開催され連日賑わいました。

8月には人間を含めたすべての生きものに命の水を供給する沖縄の河川環境の現状と河川にすむ生きもの達をテーマにした特別展「沖縄の川と生きもの」を開催し、大好評を博しました。特に室内でのダイナミックな比地大滝の再現は圧巻でした。

10月には、町の中に、あるいは路傍にさりげなく立ち、沖縄の歴史の一コマを語りかける石碑をテーマにした企画展「刻まれた歴史—沖縄の石碑と拓本」が開催され、大きな関心をあつめました。

一方、展示会のほかには次のような事業を行いました。例年、当博物館が力を入れて取り組んでいる移動博物館は17回目をかぞえ、伊良部町で開催しました。また、文化講座は224回から235回まで開催し多くの県民が受講しました。毎月一回、第2土曜日の休業日には子ども体験学習教室を開き子ども達から大変喜ばれました。夏休み「歩く・見る・作る」教室も多くの親子が参加して好評でした。沖縄県立博物館新館建設委員会は平成3年9月より新館建設基本計画の策定のために調査、研究を行い平成5年12月に「沖縄県立博物館新館建設基本計画」をまとめました。そのほか、横浜国立大学教授長谷川善和氏のもとにある化石受け入れの為の収蔵庫を整備するとともに、漆器収蔵庫の改修、屋根防水工事を実施し、施設の整備充実をはかりました。

以上が平成5年度の博物館活動の概要であります。なお、平成6年度以降も特別展や企画展、生涯学習時代のニーズに対応した文化講座や子ども達を対象にした子ども体験学習教室等の活動に力を入れ、さらに充実させていきたいと思っておりますので一層のご助言、ご協力をお願いいたします。

平成6年(1994)7月

沖縄県立博物館館長 糸 数 兼 治

目次

序	館長 糸数 兼治
I、概要	
1 沿革	5
2 施設、設備	7
3 予算	9
4 組織	10
II、入館者数	
1 入館者数	12
2 県内外児童生徒学生団体見学者	15
III、展示活動	
1 常設展	17
2 特別展	20
3 企画展	25
4 移動博物館	36
IV、教育普及活動と教育普及の取り組み	
1 活動の概要	41
2 博物館文化講座	41
3 夏休み「歩く・見る・作る」教室	43
4 子ども体験学習教室	44
5 ボランティア活動	45
6 博物館を利用した研修	46
V、調査研究等の活動	
1 調査研究	49
2 著作論文	52
3 講演等	53
VI、収蔵資料	
1 収蔵資料現在高	58
2 1993（平成5）年度新収蔵資料高	58
3 1993（平成5）年度新収蔵資料目録	59
4 所蔵国県指定文化財	60
VII、刊行物	61
VIII、その他の活動	
1 資料貸出	62
2 燻蒸処理	63
3 沖縄県立博物館協議会	63
4 沖縄県博物館協会	64
5 沖縄県立博物館友の会	66
6 博物館実習	67
7 収蔵庫整備事業	68
8 旧中城御殿石垣工事にかかる第2次発掘調査	68
IX、新館建設	69
X、日誌抄	70
XI、関係法規抄録	73

I 概 要

1 沿革

〔前史〕昭和11年(1936)沖縄県教育会付設として旧首里城北殿を利用して「沖縄郷土博物館」が創設されたが、同館は昭和20年の沖縄戦により全焼。終戦直後の昭和20年8月米国海軍軍政府は残欠文化財を収集し石川市字東恩納に「沖縄陳列館」を設立した。いっぽう、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、同21年3月頃首里に「沖縄郷土博物館」が設立された。

〔創設〕昭和21年(1946)4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」と改称して新発足。これが当館の創立に当たる。

〔発展〕昭和28年(1953)東恩納博物館と首里の博物館が合併、同30年(1955)には「琉球政府立博物館」と改称。また、同41年(1966)には現敷地に新館を建設して移転する。同47年(1972)の日本復帰にともない名称を「沖縄県立博物館」と改め、翌48年(1973)、2階を増築し展示スペースを拡大して現在に至る。

— 〔主な事項〕 —

- 昭和21年(1946) 4月24日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し沖縄民政府の所管とする。
- 昭和22年(1947) 12月、前年3月に首里汀良町に設立された沖縄郷土博物館も民政府に移管され、「沖縄民政府立首里博物館」と改称される。
- 昭和28年(1953) 3月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併。この年5月、首里博物館は当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館を落成。
- 昭和30年(1955) 9月、「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」と改称する。
- 昭和40年(1965) この年、大中町の旧尚家屋敷跡(中城御殿、現敷地)を購入する。
- 昭和41年(1966) 10月、米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の新館を建設し移転。
11月に開館。
- 昭和47年(1972) 2月、サントリー美術館との共催で「50年前の沖縄」写真展を開催。5月、日本復帰にともない「沖縄県立博物館」と改称。
- 昭和48年(1973) 2月、国庫補助により2階を増築し、展示室を3室増やす。
- 昭和51年(1976) 4月、創立30周年記念式典を行う。
- 昭和55年(1980) 1月、特別展「日本の美—救世熱海美術館名品展」および「沖縄県立博物館名品展」を開催。2月、移動博物館を久米島の具志川・仲里両村で開催し、以後、毎年離島市町村で実施する。11月、特別展「失われた生物たち—大恐竜展」開催。
- 昭和56年(1981) 3月30日付で博物館法に基づき登録される。10月、特別展「沖縄の美—日本民芸館蔵」および「戦前の沖縄写真展」を開催する。
- 昭和57年(1982) 5月、新たに常設展として自然部門を設ける。10月、特別展「熊本県・沖縄交流展—熊本の歴史と文化」を開催する。
- 昭和58年(1983) 11月、特別展「沖縄県・熊本県交流展 沖縄の美—風土と美術工芸」を熊本県立美術館にて開催する。
- 昭和60年(1985) 11月、特別展「グスク グスクが語る古代琉球の歴史とロマン」を開催する。

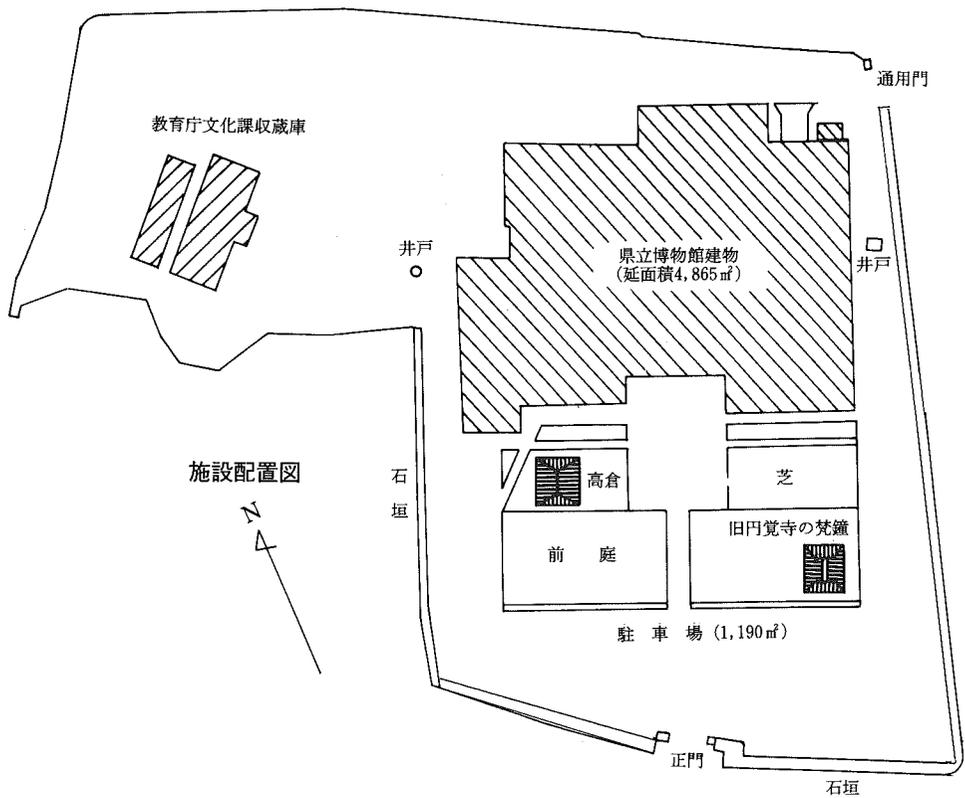
- 昭和61年（1986） 2月、特別展「美術工芸の美を求めて—大嶺薫コレクション」を開催する。
- 昭和62年（1987） 10月、スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」「沖縄近代の絵画—物故作家」開催。12月、企画展「田名家所蔵品展—ある首里士族の400年」を開催する。12月、企画展「現代沖縄の陶芸—天野鉄夫コレクション」開催する。
- 昭和63年（1988） 8月、特別展「ヤンバルの自然」を開催する。11月、特別展「三線名器100挺展」を開催する。
- 平成元年（1989） 11月、特別展「インドネシアの更紗展」を開催する。
- 平成2年（1990） 1月、特別展「大アンデス文明展」を開催する。
- 平成3年（1991） 10月、特別展「アジアの祭りと芸能」を開催する。
- 平成4年（1992） 6月、特別展「古代メキシコ至宝展」を開催する。
8月、特別展「沖縄の貝類展」を開催する。
10月、特別展「琉球王国展」を開催する。
- 平成5年（1993） 1月、特別展「尚家継承琉球王朝文化遺産展」を開催する。
8月、特別展「沖縄の川と生きもの」を開催する。

歴代館長

<p>〔東恩納博物館〕 大嶺 薫（昭和21・4～28・3）</p>	<p>〔首里博物館〕 豊平 良頭（昭和22・12～23・3） 原田 貞吉（昭和23・8～28・3）</p>
---------------------------------------	---

原田 貞吉（昭和28・3～30・5）
山里 永吉（昭和30・8～33・8）〔琉球政府立博物館〕
金城増太郎（昭和33・9～36・12）
大城 知善（昭和37・2～44・11）
外間 正幸（昭和44・12～56・3）〔沖縄県立博物館〕
大城徳治郎（昭和56・4～58・3）
大城 立裕（昭和58・4～61・3）
大城 宗清（昭和61・4～平4・3）
宜保榮治郎（平成4・4～平6・3）
糸数 兼治（平成6・4～）

2 施設・設備



施設規模

●敷地面積	11,267㎡
●建物のべ面積	4,865㎡
1階及び講堂部分	2,893
2階	1,571
地階	401
●展示面積	1,590㎡
1階	632
2階	958
●ロビー面積	256㎡
●収蔵庫面積	858㎡
●駐車場面積	1,190㎡
●庭園面積	1,612㎡
●講堂	632㎡
客席数	215席
●空調機能力	

ヒートポンプ式チリングユニット
125,000Kcal/h×2機

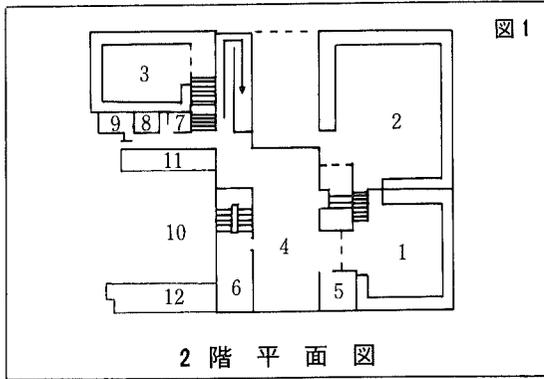
エアハンドリングユニット 6機
パッケージ型エアコン

56,000Kcal/h×1機
28,000Kcal/h×1機
2,000Kcal/h×1機
8,400Kcal/h×1機
20,000Kcal/h×1機
7,100Kcal/h×2機
1,200Kcal/h×1機
5,000Kcal/h×2機

●変電室

電灯	1φ3W 30KVA×1機
電灯・動力	3φ4W 100KVA×1機
動力	3φ3W 250KVA×1機

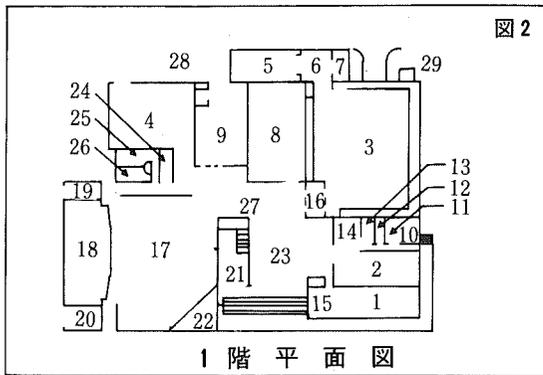
●契約電力……………205kw



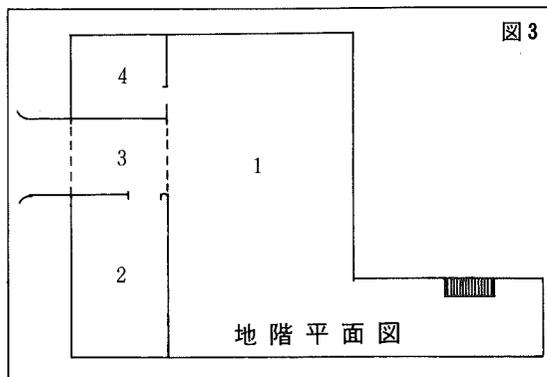
<2階>

番号	室名	面積
1	美術工芸展示室	265㎡
2	民俗展示室	436
3	漆器收藏庫	170
4	企画展示室	257
5	空調室	29
6	ホール控室	59
7	化粧室(女)	6
8	化粧室(男)	11
9	空調室	12
10	收藏庫(中2階)	120
11	貝類收藏庫	25
12	陶器收藏庫	36
13	その他	145㎡

<1階>



番号	室名	面積
1	事務室	115㎡
2	会議室	96
3	歴史展示室	462
4	自然史展示室	170
5	收藏庫	120
6	荷解場	32
7	陶磁器收藏庫	11
8	中庭	152
9	厨子甕收藏庫	91
10	宿直室	11
11	湯沸室	8
12	化粧室(女)	7
13	化粧室(男)	9
14	図書室	28
15	館長室兼応接室	28
16	案内コーナー	18
17	講堂(客室)	428
18	ステージ	116
19	控室	19
20	控室	32
21	講堂出入口	37
22	守衛室	14
23	ロビー	256
24	倉庫	14
25	化粧室(女)	21
26	化粧室(男)	17
27	友の会	10
28	空調室	11
29	ポンプ室	5



<地階>

番号	室名	面積
1	收藏庫	285㎡
2	冷房機室	58
3	荷解場	28
4	変電室	30

3 予 算

平成5年度博物館費（決算）

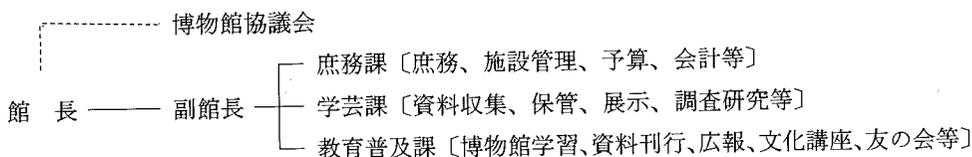
	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博 物 館 費
報 酬	123,000	0	123,000
賃 金	5,387,800	767,000	6,154,800
報 償 費	819,500	558,160	1,377,660
旅 費	4,375,486	3,993,780	8,369,266
（普 通 旅 費）	3,372,164	3,483,074	6,855,238
需 用 費	21,721,755	13,442,764	35,164,519
食 糧 費	181,033	164,751	345,784
消 耗 品 費	908,000	960,828	1,868,828
燃 料 費	53,000	0	53,000
印 刷 製 本 費	3,159,000	10,032,105	13,191,105
光 熱 水 費	15,334,000	0	15,334,000
修 繕 費	2,086,722	2,285,080	4,371,802
役 務 費	1,081,355	5,770,473	6,851,828
通 信 運 搬 費	996,335	5,764,323	6,760,658
手 数 料	47,000	0	47,000
筆 耕 翻 訳 料	19,000	5,150	24,150
保 險 料	0	1,000	1,000
自 動 車 損 害 保 險 料	19,020		19,020
委 託 料	23,247,658	14,573,968	37,821,626
使 用 料 及 び 賃 借 料	1,695,863	392,446	2,088,309
工 事 請 負 費	55,251,723	0	55,251,723
備 品 購 入 費	7,024,595	1,864,850	8,889,445
負 担 金 補 助 及 交 付 金	65,000	0	65,000
公 課 費	18,900	0	18,900
合 計	120,812,635	41,363,441	162,176,076

平成5年度歳入状況（決算）

	友 の 会 等	特 別 展 等	合 計
博 物 館 使 用 料	0	14,958,000	14,958,000
土 地 使 用 料	9,000	0	9,000
建 物 使 用 料	24,000	0	24,000
雑 入	169,000	0	169,000
合 計	202,000	14,958,000	15,160,000

4 組 織

(1) 機 構



(2) 職員構成

平成6年4月1日現在

職 名	氏 名	担 当 業 務
館 長	糸 数 兼 治	博物館業務の総理に関すること。
副 館 長	濱 比 嘉 勝	館長補佐、庶務課・学芸課・教育普及課との調整に関すること。
庶 務 課 長	山 里 盛 直	庶務課の統轄、予算・決算、施設管理（鍵・公印の保管等）、職員研修計画、県立博物館協議会全国及び九州ブロック博物館協議会、会計監査、その他庶務に関すること。
副 主 査	玉 元 妙 子	決算、給与、支出事務に関すること。
技 師	岸 本 実	施設設備の保守管理、くん蒸、車両の管理。
主 事	當 山 裕 貴 子	歳入、文書等の収受、消耗品の受入、出勤簿整理、諸手当の認定、賃金職員の申請、寄贈図書類受入、切手等の管理。
主幹兼学芸課長	大 城 将 保	学芸業務の統轄、歴史、学芸員研修、博物館実習及び沖博協に関すること。
指 導 主 事	久 貝 勝 盛	自然史（植物・動物）、総合調査、図書購入、年報及び紀要に関すること。
指 導 主 事	瀬 名 波 任	自然史（地質）及び沖博協に関すること。
指 導 主 事	嵩 原 建 二	自然史（植物・動物）及び収蔵資料整理に関すること。
学 芸 員	萩 尾 俊 章	歴史、資料保存及び資料収集・複製等に関すること。
学 芸 員	與 那 嶺 一 子	美術工芸、資料受入、整理・分類、資料貸出及び写真資料に関すること。
主幹兼教育普及課長	當 眞 嗣 一	教育普及業務の統轄、友の会の援助等及び考古に関すること。
指 導 主 事	前 田 真 之	教育普及、博物館学習、団体見学、体験学習及びボランティア活動に関すること。
指 導 主 事	瑞 慶 山 昇	教育普及、移動博物館、教育普及機器の整備、広報、博物館シアター及び美術工芸に関すること。
専 門 員	金 城 透	教育普及、文化講座、視聴覚資料、広報及び民俗に関すること。

非常勤職員	氏名	担当業務
教育普及補助員	上原 敏子	教育普及および展示解説に関すること。
〃	金城 武子	教育普及、展示解説及び寄贈図書類受入に関すること。
監視員	西平 節子	受付及び展示場監視に関すること。
〃	東 美智子	〃
〃	金城 民子	〃
〃	小橋川 敏子	展示場監視に関すること。
〃	喜屋武 トシ子	〃
〃	比嘉 春子	〃
清掃員	渡慶次 柴宝	清掃に関すること。

博物館友の会	氏名	担当業務
博物館友の会	池宮城 啓子	博物館友の会の庶務会計

(3) 人事異動

平成6年4月1日

職名	氏名	摘要
〈転出〉		
館長	宜保 榮治郎	定年退職
主査	上江洲 キク	勸奨退職
副主査	宜保 光子	福利課へ
〈転入〉		
館長	糸数 兼治	文化課課長から
副主査	玉元 妙子	図書館から
臨任	當山 裕貴子	—

II 入館者数

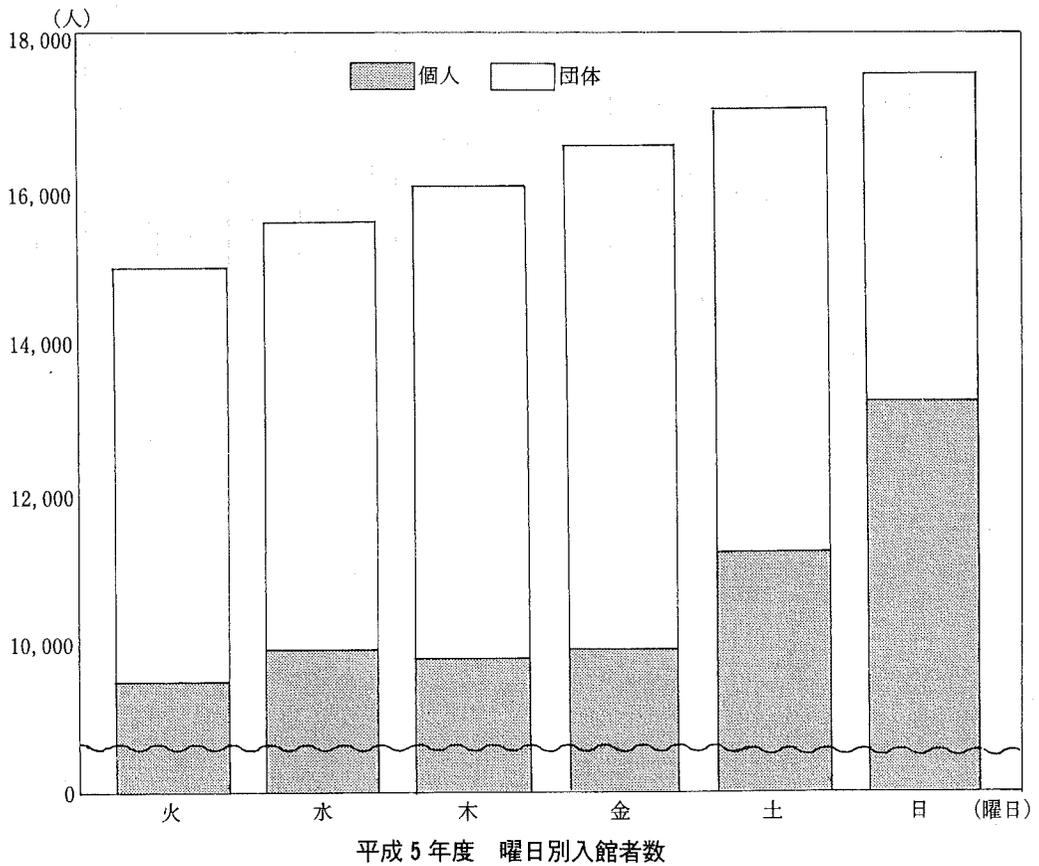
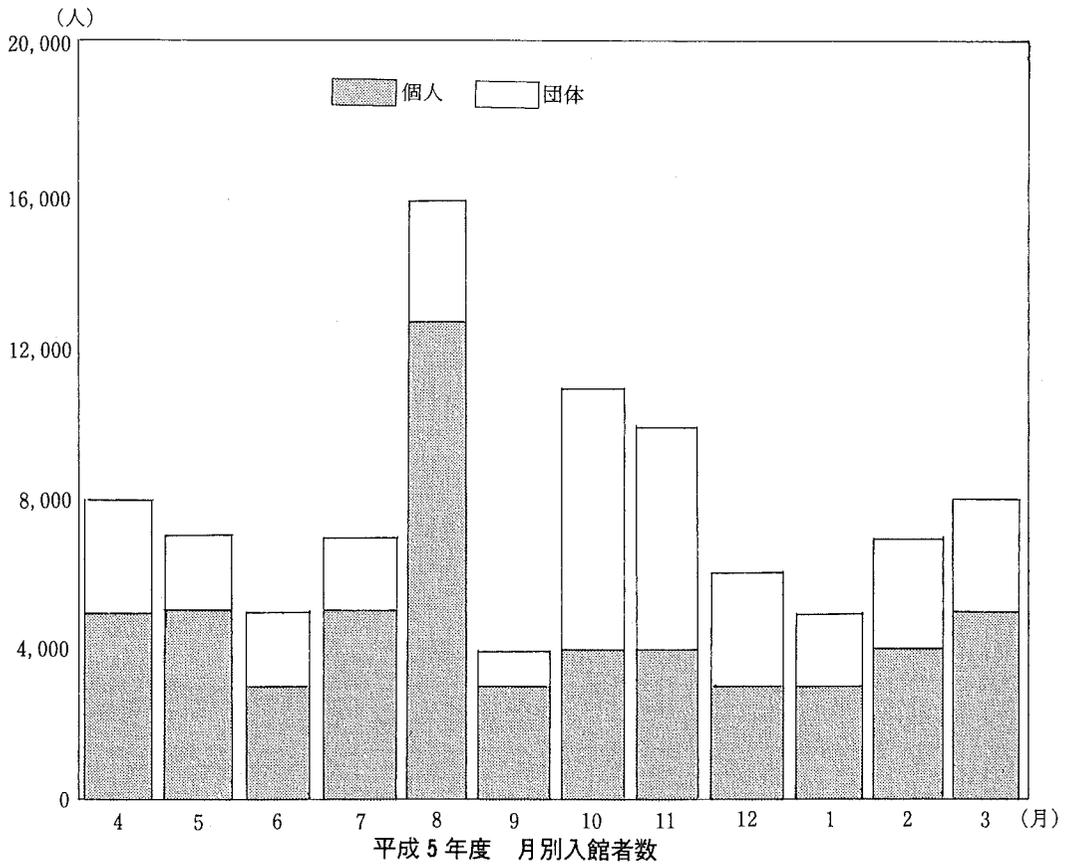
1 入館者数(平成5年4月1日～平成6年3月31日)特別展等を含む

入館者月別集計

年	個人入館者数						団体入館者数						入館者総数						開館日数	1日平均入館者数
	大人		高大学生		小中学生		大人		高大学生		小中学生		大人		高大学生		小中学生			
	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計																
4月	4,074	4,074	191	4,591	326	4,821	1,232	1,545	186	1,718	127	1,845	5,306	5,306	377	5,683	453	6,136	25	324
5月	4,312	4,312	130	4,821	379	4,821	515	1,743	1,086	2,811	142	2,953	4,827	4,827	1,216	6,043	521	6,564	25	304
6月	2,482	2,482	515	3,094	97	3,094	626	3,720	393	4,013	367	4,380	3,108	3,108	908	4,296	464	4,760	22	225
7月	3,591	3,591	422	4,376	363	4,376	958	5,334	903	6,237	95	6,332	4,549	4,549	1,325	7,664	458	8,118	25	315
8月	7,339	7,339	886	8,225	4,979	13,204	570	13,774	660	14,434	821	15,255	7,909	7,909	1,546	9,455	5,800	15,255	25	640
9月	2,189	2,189	277	2,983	517	2,983	324	3,300	423	3,723	393	4,116	2,513	2,513	700	4,816	910	5,726	19	245
10月	3,199	3,199	209	3,632	224	3,632	770	4,402	2,579	6,981	185	7,166	3,969	3,969	2,788	9,957	409	10,366	26	440
11月	3,421	3,421	412	3,990	157	3,990	818	4,808	1,564	6,372	580	6,952	4,239	4,239	1,976	8,928	737	9,665	25	423
12月	2,347	2,347	498	2,939	94	2,939	197	3,136	2,376	5,512	490	6,002	2,544	2,544	2,874	8,876	584	9,460	22	299
6年	2,677	2,677	126	3,105	302	3,105	139	3,244	957	4,201	94	4,295	4,257	4,257	1,083	5,340	396	5,736	25	205
2月	3,472	3,472	410	4,029	147	4,029	785	4,814	179	5,003	12	5,015	4,633	4,633	589	5,602	159	5,761	23	316
3月	3,916	3,916	730	5,088	442	5,088	717	5,805	1,244	7,049	199	7,248	4,633	4,633	1,974	9,217	641	9,858	26	334
合計	43,019	43,019	4,806	55,825	8,027	55,825	7,651	63,476	12,550	76,026	3,505	80,531	50,670	50,670	17,356	97,886	11,532	109,418	287	343
総計	44,028	44,028	4,843	57,370	8,499	57,370	10,010	67,380	13,261	80,641	17,716	98,357	54,038	54,038	18,104	116,461	26,215	142,676	287	343

入館者曜日別集計

曜日	個人入館者数						団体入館者数						入館者総数						開館日数	1日平均入館者数	
	大人		高大学生		小中学生		大人		高大学生		小中学生		大人		高大学生		小中学生				
	有料(無料)	合計																			
月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
火	5,483	5,483	716	7,342	1,143	7,342	745	8,885	2,707	11,592	433	12,025	6,228	6,228	3,423	19,653	1,576	21,229	46	332	
水	6,545	6,545	755	8,572	1,272	8,572	1,141	9,713	2,445	12,158	721	12,879	7,686	7,686	3,200	15,886	1,993	17,879	47	336	
木	6,239	6,239	633	7,934	1,032	7,934	976	8,910	2,532	11,442	762	12,204	7,215	7,215	3,195	15,409	1,794	17,203	47	343	
金	6,769	6,769	764	8,450	917	8,450	1,241	9,691	2,015	11,706	347	12,053	8,010	8,010	2,779	14,789	1,264	16,053	48	343	
土	8,316	8,316	688	10,261	1,257	10,261	1,466	11,727	1,742	13,469	692	14,161	9,782	9,782	2,430	16,612	1,949	18,561	50	344	
日	9,667	9,667	1,220	13,293	2,406	13,293	2,082	15,375	1,109	16,484	550	17,034	11,749	11,749	2,329	19,073	2,956	21,029	49	358	
合計	43,019	43,019	4,806	55,825	8,027	55,825	7,651	63,476	12,550	76,026	3,505	80,531	50,670	50,670	17,356	97,886	11,532	109,418	287	343	



団体入館者数（有料）

年 月	県 内								県 外								国 外								合 計		
	大 人		高大生		小中生		小 計		大 人		高大生		小中生		小 計		大 人		高大生		小中生		小 計				
	団体数	人 数	団体数	人 数	団体数	人 数	団体数	人 数	団体数	人 数	団体数	人 数	団体数	人 数	団体数	人 数	団体数	人 数	団体数	人 数	団体数	人 数	団体数	人 数	団体数	人 数	
平成5年 4月	8	259	0	0	0	2	8	261	9	375	3	177	2	125	14	877	4	398	0	9	0	0	4	407	26	1,545	
5月	5	270	1	28	1	5	7	303	8	222	7	1,058	1	41	16	1,321	2	23	0	0	2	96	4	119	27	1,743	
6月	10	358	2	134	1	3	13	495	6	206	3	259	3	359	12	824	1	62	0	0	1	5	2	67	27	1,386	
7月	10	424	0	0	0	78	10	502	2	461	6	901	0	0	8	1,362	3	73	0	2	0	17	3	92	21	1,956	
8月	10	503	15	510	21	697	46	1,710	2	67	2	150	4	124	8	341	0	0	0	0	0	0	0	0	54	2,051	
9月	5	248	1	44	3	193	9	485	3	76	3	379	2	200	8	655	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	1,140
10月	5	159	0	0	0	0	5	159	12	500	13	2,571	2	165	27	3,236	3	111	0	8	0	20	3	139	35	3,534	
11月	9	561	1	2	3	229	13	792	7	182	10	1,562	3	351	20	2,095	2	75	0	0	0	0	2	75	35	2,962	
12月	3	112	0	0	3	182	6	294	2	85	14	2,376	1	308	17	2,769	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	3,063
平成6年 1月	3	81	0	1	1	72	4	154	2	58	4	956	1	22	7	1,036	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	1,190
2月	3	84	0	0	0	0	3	84	7	311	1	179	0	0	8	490	3	390	0	0	1	12	4	402	15	976	
3月	7	242	0	0	1	38	8	280	9	272	10	1,244	2	161	21	1,677	1	203	0	0	0	0	1	203	30	2,160	
合 計	78	3,301	20	719	34	1,499	132	5,519	69	3,015	76	11,812	21	1,856	166	16,683	19	1,335	0	19	4	150	23	1,504	321	23,706	

移動博物館入館者数（1,822人）

2 県内外児童生徒学生団体入館者数

(小学校) 12,037名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	17	識名小学校 194名	19	読谷小学校 116名	11	12	安富祖小学校 16名	
	17	天妃小学校 160名	20	東江小学校 129名		12	佐敷小学校 75名	
	17	大道小学校 116名	20	与那原小学校 109名		12	東小学校 23名	
	17	松島小学校 177名	21	天底小学校 38名		12	津堅小学校 7名	
	20	垣花小学校 89名	21	南原小学校 37名		12	羽地小学校 83名	
	24	小禄小学校 124名	21	本部小学校 166名		12	大里小学校 51名	
	24	城北小学校 152名	21	米須小学校 41名		16	仲里小学校 30名	
	27	中城小学校 86名	22	伊江小学校 47名		18	西崎小学校 159名	
	28	光洋小学校 107名	22	中原小学校 116名		18	塩屋小学校 17名	
	28	西崎小学校 129名	22	志真志小学校 170名		18	久辺小学校 34名	
	30	神森小学校 83名	22	久志小学校 24名		18	阿波連小学校 14名	
	30	翔南小学校 114名	22	中の町小学校 132名		18	大宮小学校 169名	
5	12	琉大教育学部附属小学 110名	22	上原小学校 17名		19	大北小学校 114名	
	15	松島小学校 95名	23	座間味小学校 6名		19	安和小学校 19名	
	15	松川小学校 177名	23	宮島小学校 18名		19	奥間小学校 26名	
	18	鏡原小学校 44名	24	和光小学校 114名		25	伊平屋小学校 24名	
	18	宮原小学校 10名	26	高原小学校 129名		27	石嶺小学校 155名	
	20	KILLIN ELEM 53名	26	喜如嘉小学校 19名	12	2	STEARLEY HTS ELEM 68名	
	27	KILLIN ELEM 43名	27	北美小学校 96名		2	コザ小学校 92名	
	27	久松小学校 46名	27	本部小学校 52名		7	泊小学校 208名	
	27	西城小学校 39名	28	中川小学校 16名		8	比屋定小学校 22名	
	28	平良南小学校 136名	28	金武小学校 83名		14	AVUELIE EAN 71名	
6	2	平良第一小学校 142名	28	稲田小学校 26名		18	宜野湾小学校 32名	
	2	黒島小学校 4名	28	高嶺小学校 66名		27	糸満小学校 73名	
	2	大原小学校 10名	28	真壁小学校 57名		28	城北小学校 143名	
	3	砂川小学校 38名	28	高江洲小学校 61名		28	与儀小学校 126名	
	3	福嶺小学校 25名	29	西原東小学校 150名	2	1	上田小学校 182名	
	15	西辺小学校 30名	29	与那国小学校 25名		8	西原南小学校 70名	
	18	東小学校 133名	29	平安座小学校 98名		9	西原小学校 137名	
	24	比川小学校 9名	29	城前小学校 90名		10	松島小学校 155名	
	29	座間味小学校 16名	2	松田小学校 18名		16	光洋小学校 150名	
	29	大岳小学校 35名	2	屋部小学校 68名		18	宇栄原小学校 135名	
7	1	富野小学校 6名	2	牧港小学校 160名		19	天妃小学校 130名	
	2	阿嘉小学校 6名	4	知念小学校 93名		19	高良小学校 198名	
	2	小浜小学校 14名	4	与那城小学校 160名		22	松川小学校 186名	
9	29	北玉小学校 82名	5	名護小学校 94名		23	天妃小学校 130名	
	29	天妃小学校 14名	5	辺土名小学校 41名		24	城南小学校 110名	
	29	嘉芸小学校 25名	5	宜野座小学校 42名		26	城東小学校 170名	
10	8	今帰仁小学校 69名	9	安慶田小学校 141名		26	識名小学校 203名	
	8	宮城小学校 18名	9	漢那小学校 22名	3	2	真和志小学校 111名	
	12	久部良小学校 14名	10	安田小学校 7名		3	大名小学校 63名	
	14	座間味小学校 10名	10	清水小学校 46名		3	若狭小学校 145名	
	14	恩納小学校 33名	11	当山小学校 158名		4	安謝小学校 111名	
	14	室川小学校 86名	11	屋我地小学校 29名		8	船越小学校 53名	
	15	有銘小学校 15名	11	屋良小学校 53名		8	垣花小学校 85名	
	15	与那原東小学校 122名	11	嘉手納小学校 120名		9	久茂地小学校 70名	
	19	具志川小学校 62名	11	勝連小学校 81名		11	神原小学校 135名	
	19	城西小学校 173名	11	嘉陽小学校 8名		17	城西小学校 135名	
	19	玉城小学校 69名	11	真喜屋小学校 35名		18	城岳小学校 154名	

(中学校) 3,674名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	18	早町中学校 43名	10	19	兼城中学校 124名	11	16	金城中学校 308名
	18	喜界第一中学校 79名		26	桑江中学校 205名		18	網田中学校 63名
	30	浜中学校 18名		26	高嶺中学校 74名		20	成城中学校 199名
5	11	成城学園中学校 41名		28	佐敷中学校 189名		26	坂本中学校 89名
6	3	西合長中学校 117名		29	伊良波中学校 261名		26	具志頭中学校 101名
	8	鹿北中学校 82名		31	渡名喜中学校 31名	12	15	大洋中学校 308名
	22	一の宮中学校 160名	11	2	与勝中学校 255名		15	越来中学校 125名
9	25	小宿中学校 140名		2	安慶田中学校 254名	1	20	教良木中学校 22名
	26	清和中学校 60名		7	仲井真中学校 13名	3	2	レスター中学校 38名
	26	青海中学校 51名		11	宮城中学校 37名		25	愛媛大教育学部附属中 80名
10	16	南風原中学校 12名		12	佐手中学校 18名		26	愛媛大教育学部附属中 77名

(高等学校)

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	14	国立音大付属高等学校 77名	10	12	ノートルダム清心高校 196名	12	11	古川商業高等学校 121名
	28	光泉高等学校 49名		19	日本大付属藤沢高校 168名		14	明德商業高等学校 183名
5	11	金蘭会高等学校 204名		20	城星学園高等学校 139名		15	明德商業高等学校 133名
	12	駒場学園高等学校 229名		20	日本大付属藤沢高校 181名		16	明德商業高等学校 135名
	13	金蘭会高等学校 208名		21	日本大付属藤沢高校 229名		17	明德商業高等学校 180名
	19	駒場学園高等学校 181名		26	湘南女子高等学校 158名		17	京都女子高等学校 37名
	19	沖縄県立コザ高等学校 46名		27	湘南女子高等学校 195名		18	明德商業高等学校 133名
	26	神奈川大付属高等学校 203名		29	竹原高等学校 241名		21	西山高等学校 246名
	26	帝京八好高等学校 168名	11	3	沖縄県立コザ高等学校 85名		22	西山高等学校 249名
	26	石川県立高等学校 44名		5	菊池女子高等学校 84名	1	19	南部農林高等学校 180名
	26	東海大学第一高等学校 47名		11	桜丘女子高等学校 240名		26	名古屋学院高等学校 258名
7	3	九州産業高等学校 393名		17	広島文教女子大付属高 181名		27	名古屋学院高等学校 268名
	4	九州産業高等学校 212名		18	都立牛込商業高等学校 239名		28	神奈川県立藤沢西高校 213名
	6	九州産業高等学校 190名		20	秋田修英高等学校 67名		29	神奈川県立藤沢西高校 217名
	13	沖縄県立首里高等学校 36名		26	東京成徳深谷高等学校 245名	2	4	東京都立農業高校 179名
	15	沖縄県立首里高等学校 40名		26	金蘭会高等学校 37名	3	2	藤嶺学園藤沢高等学校 318名
	17	沖縄県立首里高等学校 41名		27	浜松商業高等学校 84名		4	大阪商業大学高等学校 134名
9	24	具志川商業高等学校 100名		30	市川高等学校 359名		5	大阪商業大学高等学校 131名
	28	具志川商業高等学校 100名	12	2	東海大菅生高等学校 332名		6	大阪商業大学高等学校 126名
10	3	淑徳巣鴨高等学校 389名		9	精華女子高等学校 244名		10	富山国際大学付属高校 172名
	5	淑徳巣鴨高等学校 450名		9	古川商業高等学校 120名		13	同志国際高等学校 44名
	7	大聖寺実業高等学校 33名		10	古川商業高等学校 120名		18	筑波大学付属坂戸高校 155名
	7	大聖寺実業高等学校 20名		10	帝塚山学院泉近高校 143名			

(大学・専門学校) 618名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
5	12	沖縄県立看護学校 97名	7	15	情報産業専門学校 20名	1	10	郡山女子短期大学 79名
	15	九州福祉医療専門学校 33名		20	多摩美術大学 46名	3	16	鶴貝大学 40名
	22	琉球大学 23名	10	3	実践女子大学 43名		24	沖縄国際大学 19名
6	25	ソーシャルワーク専校 37名		28	国士館短期大学 49名		25	沖縄国際大学 21名
7	2	慈恵青戸看護専門学校 40名	11	10	文化女子大学 26名		25	山陽女子短期大学 45名

(特殊学校・その他) 704名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	9	長田学童保育所 15名		18	光幼児学園 35名	1	12	女子短附属報恩幼稚園 30名
	30	沖縄高等養護学校 41名	9	22	県立那覇養護学校 4名		27	石川市保育所 18名
6	10	童夢保育園 26名	10	7	沖縄ろう学校 5名		24	育英義塾幼稚園 45名
	16	南風学園 49名		27	慈愛幼稚園 42名		24	みぎわ保育園 17名
	17	県立身障者更正指導所 44名	11	5	当蔵保育所 19名		24	あおぞら保育園 14名
	24	ピーターパン保育園 14名		10	城西幼稚園 84名	3	10	愛育保育園
7	1	光の子保育園 23名		26	那覇市立上間幼稚園 140名			
	15	県立森川養護学校 8名	12	8	エミール保育園 31名			

Ⅲ 展示活動

1 常設展

常設展は、「沖縄の自然・歴史・文化」をテーマに、歴史、自然史、美術工芸、民俗の4分野で構成されている。

まず前庭には、亜熱帯の樹木や草花に囲まれて、旧円覚寺楼鐘（重文）や高倉などの屋外展示がある。敷地は中城御殿（尚家別邸）の屋敷跡で、独特の工法で積まれた石垣は前方の龍潭や首里城の眺めと調和して王朝時代の姿をしのばせる歴史的景観をなしている。

ロビーにはいると、首里城正殿の模型を中心に、万国津梁の鐘（首里城正殿鐘・重文）や正殿大龍柱の頭部、王朝時代の扁額などによって「琉球王国」のイメージを象徴的に展示してある。

1階には、「歴史」展示室（第1室）と「自然史」展示室（第2室）がある。

第1室「歴史」は、旧石器時代から現代までの沖縄の歴史を通史的な流れにそって展示してある。港川人に代表される旧石器時代、そして九州縄文文化の南下に刺激されて独自の展開をみせる沖縄貝塚時代の様子や、沖縄諸島とは起源を異にする宮古・八重山諸島の原始・古代の展示がみられる。12世紀にはいると、地方の支配者である按司が群雄割拠してグスク時代がはじまる。やがて15世紀初頭には沖縄は統一されて琉球王国が誕生する。琉球は大交易時代の国際交流によって王朝文化の花を咲かせるが、やがて薩摩の支配下にはいり幕藩体制にくみこまれていく。続いて幕末の開国の動き、琉球処分、明治・大正・昭和の世相、沖縄戦から戦後の米軍統治時代にいたるまで沖縄歴史のユニークな諸相が展開されている。

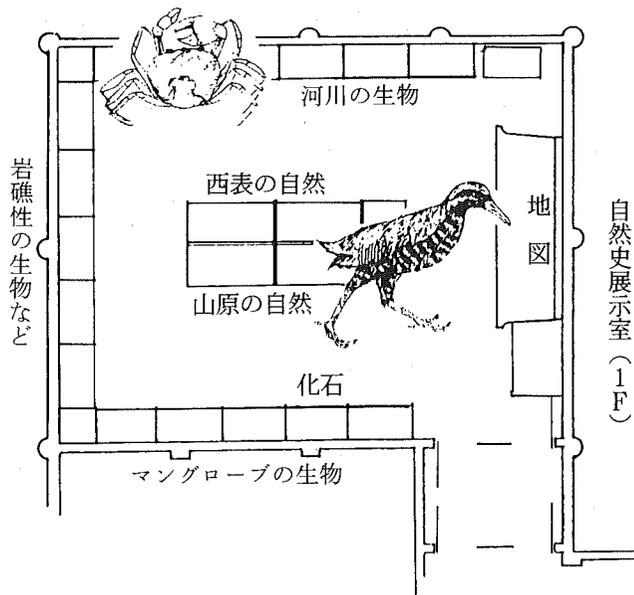
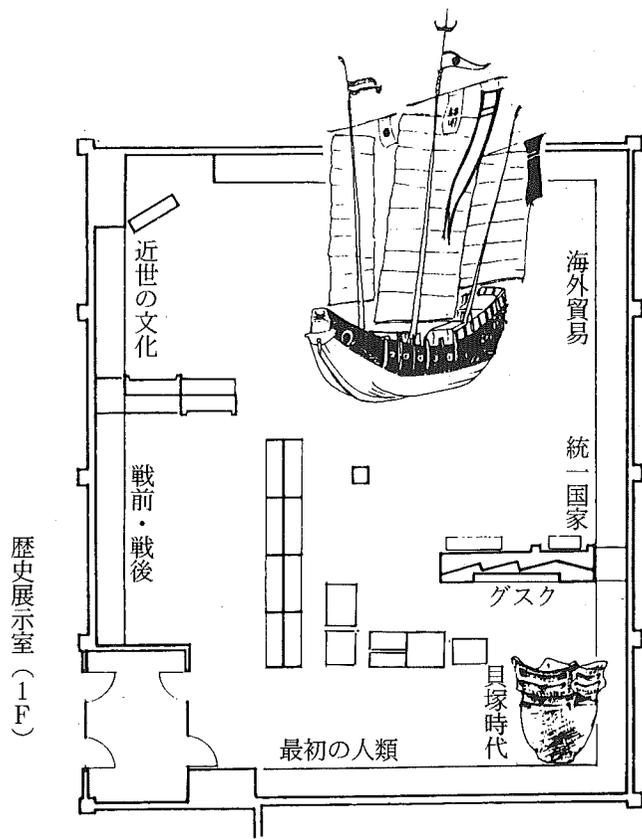
第2室「自然史」は、琉球列島の成立からはじまって亜熱帯地域にひろがる沖縄の自然について展示してある。ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、イリオモテヤマネコ、ヤンバルテナゴコガネといった、沖縄にしか生息しない動物をはじめ、「東洋のガラパゴス」と呼ばれるほどに多様で貴重な動植物を、それらが生息する環境ごとに整理して標本や写真で紹介している。とくに大自然の宝庫といわれるヤンバル（山原・沖縄本島北部）と西表島について特設コーナーをもうけて展示してある。

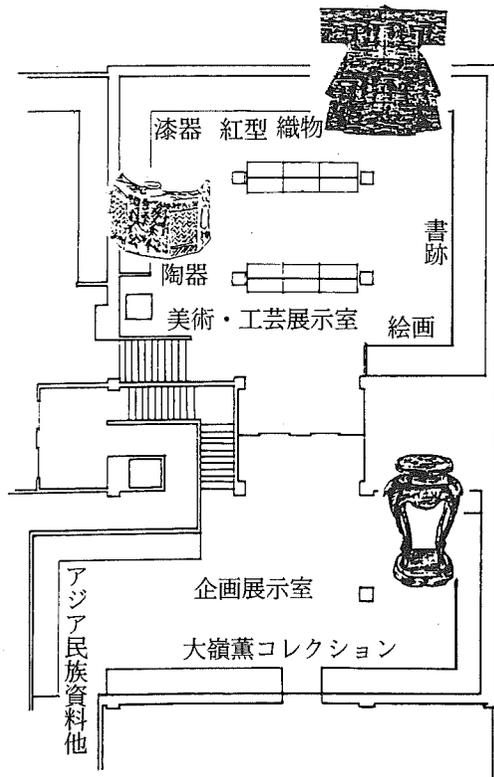
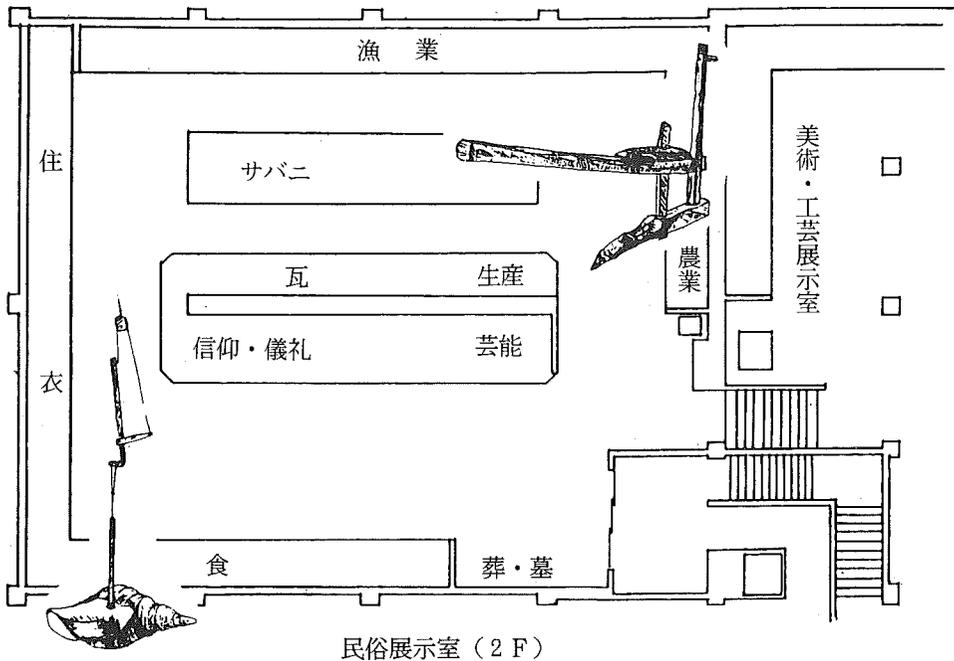
スロープ壁面の写真展示に導かれて2階にのぼると、「美術工芸」展示室（第3室）と「民俗」展示室（第4室）がある。途中の2階ロビー（企画展示室）では企画展なども催されるが、ふだんは「大嶺薫コレクション」と「東南アジアの染織」などが展示してある。（同室は随時展示替えが行われる）

第3室「美術工芸」には、琉球王朝文化の輝きをしのばせる、絵画、書跡、染織、漆器、陶器、などが展示されている。中国の影響をうかがわせる王府時代の絵画や書跡、緋・びん型・花織などの独特な技術や意匠を表現した染織、螺鈿・沈金・堆錦などの高度な技法をみせる琉球漆器、そして壺屋の琉球陶器など、亜熱帯の風土と海外文化交流によって生み出された美術工芸品は、沖縄の個性的な芸術世界を表現している。

第4室「民俗」は、琉球列島の民俗資料を、農業・漁業・衣食住・信仰・芸能・葬墓制などのコーナーに整理分類して展示してある。これらの生活用品を通して、昔の人びとが工夫して築いてきた沖縄の生活文化の特色を知ることができる。

なお、特別展または大規模な企画展の期間中は常設展の一部を撤去して特別展示室に用いる場合がある。





2 特別展

「沖縄の川の生きもの」(担当：嵩原建二、久貝勝盛、瀬名波任)

会 期：平成5年8月3日(火)～9月5日(日)

会 場：1階ロビー、自然史室(第2展示室)、2階企画展示室、第3展示室(美術工芸室)

〔開催趣旨〕人間が生活に必要な飲料水を得る場所として利用している河川は、一方で数多くの河川生物がすむ豊かな生態系を有する環境でもある。本展示会では、沖縄の河川生物に焦点をあて、その生息実態を紹介するとともに、沖縄の河川環境の現状についても紹介し、望ましい河川環境の在り方や河川の保護と浄化に関心をもたせるとともに、環境保護の心情や意識高揚に寄与することをねらいにして開催された展示会である。

〔開催形式〕本展示会は、沖縄県立博物館及び沖縄県立博物館友の会が主催し、沖縄タイムスの共催、沖縄総合事務局及び河川環境管理財団の後援及び(株)沖縄フジカラーの協力等によって開催された。

〔展示内容〕展示の流れとしては、1階自然史室においては「沖縄の川の生きもの」、2階の企画展示室には「川の生きもの生活史」、2階奥の美術工芸室には「川と人のかかわり」と3つのメイン展示テーマにそった展示構成を行った。

各テーマの展示内容としては、「沖縄の川の生きもの」では沖縄の川の成り立ち、河口、マングローブの生きもの、湿地や沼地の生きもの、中流域(滝の下)の生きもの、滝周辺の生きもの、沖縄の川の特徴、中流域(滝の上)の生きもの、山地部上流域の生きもの、源流の生きものと各環境ごとに生息する河川生物をジオラマ的に展示配列し、臨場感が体験でき、こどもたちが楽しんで観覧できるように配慮した。

「川の生きもの生活史」では沖縄にすむ代表的な魚類、甲殻類、水生昆虫類、両生類等の河川生物の生活史を中心に紹介し、河川生物の川と海のかかわりやその生活史に与える人の影響として、ダム開発や河川改修、赤土汚染、河口閉塞、移入動物等川の生きもの生活にいかに関人の影響(ヒューマン・インパクト)が生じている現状を展示紹介した。

「川と人のかかわり」においては、沖縄の河川整備の歴史や川と人間生活との関わりの中で、河川水を使った作物栽培、生活水としてのダムの河川利用、河川生物の捕獲器(アエク)、川の汚れと生きものの分布、河川の調査、河川の整備、河川生物や河川復元の取り組み、新たな水辺空間の創出、河川の保護等多岐にわたる川と人のかかわりの歴史や民俗的な関わり及び現在の河川環境の現状について理解を深め、その保護や再生等についても関心を持つことができるような展示配列を行った。

さらに補完的な展示として、1階正面入り口(ロビー)にはリュウキュウアユの飼育水槽とヒルギの鉢植えを配置し、また造作物で滝を再現するなど、来館者に沖縄の河川環境を印象づけることができた。2階スロープには沖縄の川を写真で紹介し、2階企画展示室中央では沖縄の河川生物を水槽飼育するなど子供たちにとっても楽しめるような展示構成を行った。

本特別展では、オープン以来多数の県民が観覧し、沖縄の河川環境の現状について関心を深めることができたものと思われる。このことはまた、河川環境を大切にする保護意識の啓蒙と高揚を図る絶好の機会となった。

〔関連行事〕

1 特別文化講演会

期日：平成5年8月21日（土）

講師：水野信彦氏（愛媛大学教授）

演題：「生きものにやさしい川造り」

場所：沖縄県立博物館講堂

2 現地研修会（自然観察会）

期日：平成5年8月22日（日）

講師：幸地良仁氏（元南風原高校教諭）、豊見山元氏（北中城高校教諭）、長嶺邦雄氏（小禄中学校教諭）

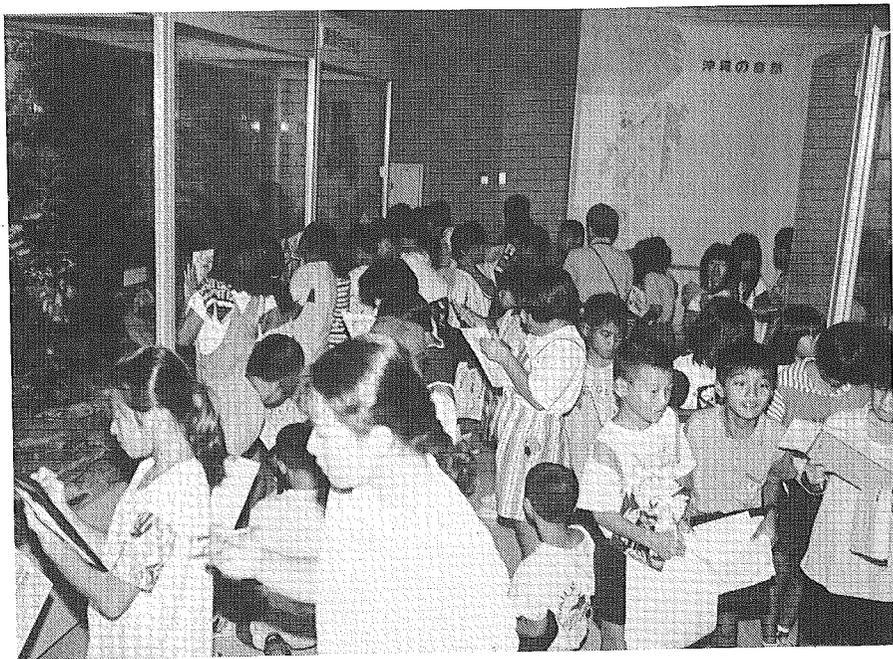
自然観察会名：「沖縄島北部の河川めぐり」



オープニング



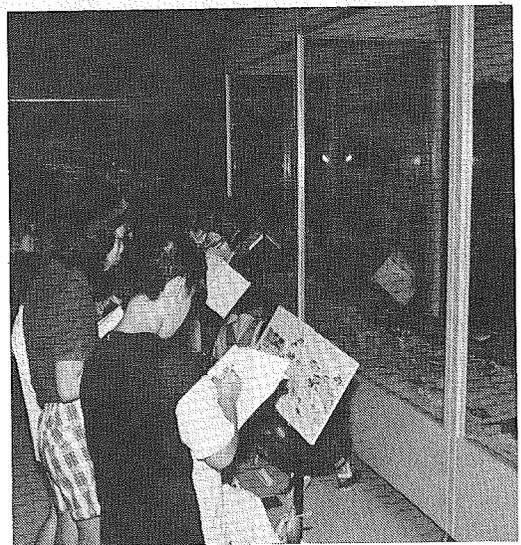
ヤエヤマヒルギの鉢植え（1階ロビー）



近隣小学校の来館（1階自然史室）

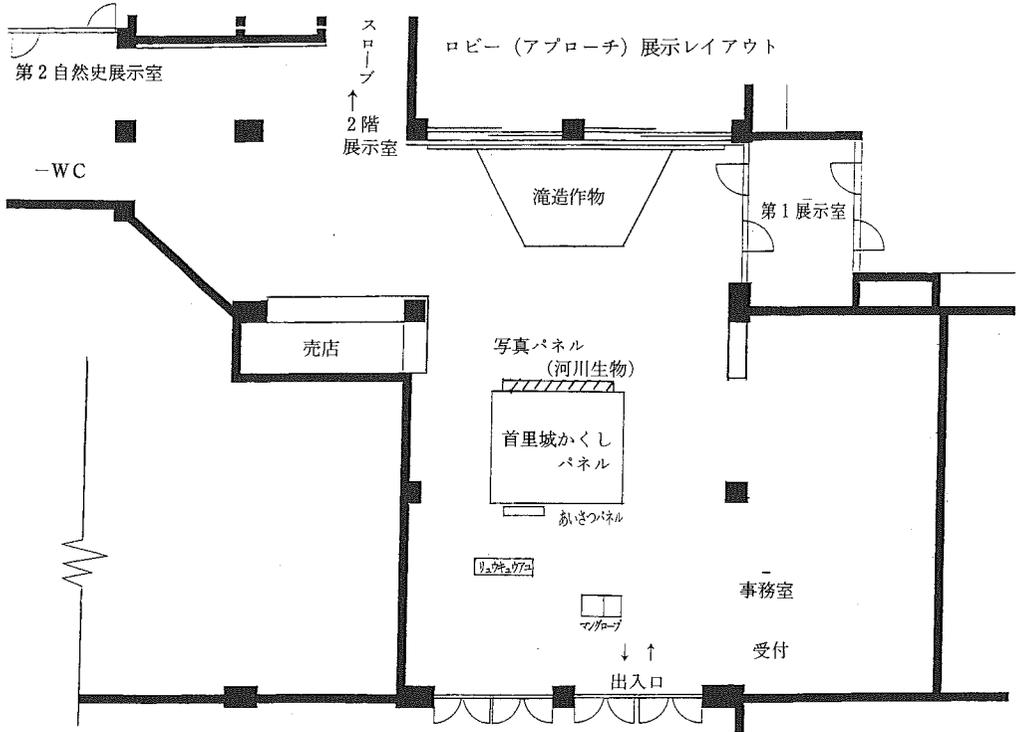


河川生物の飼育展示
（2階企画展示室）

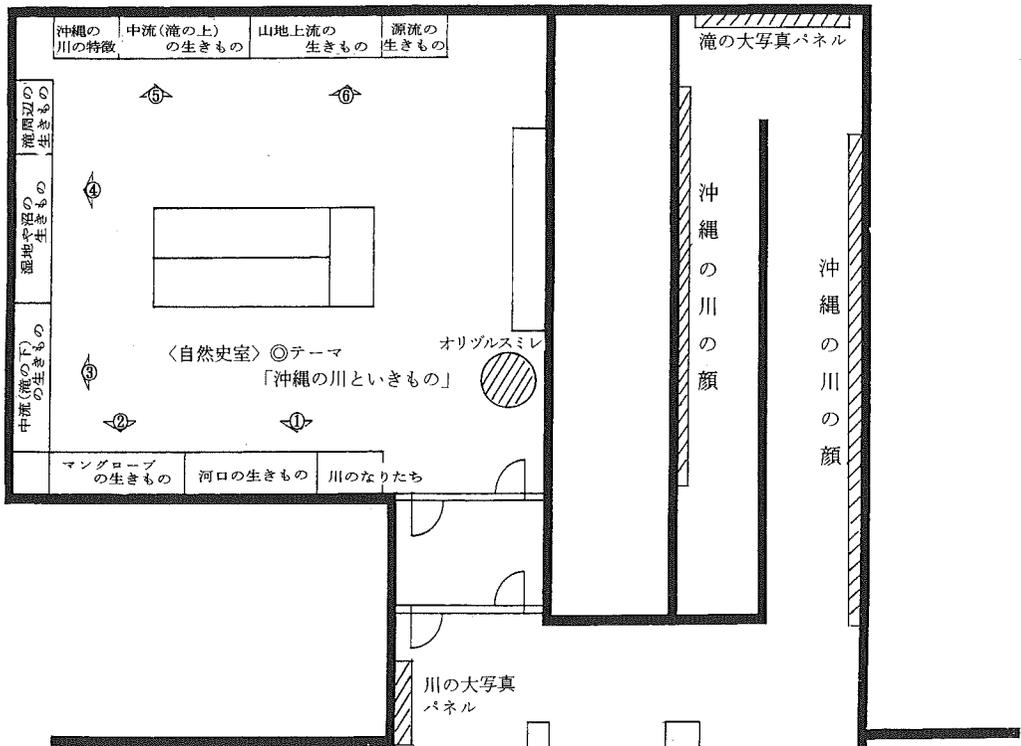


熱心にメモを取る児童・生徒

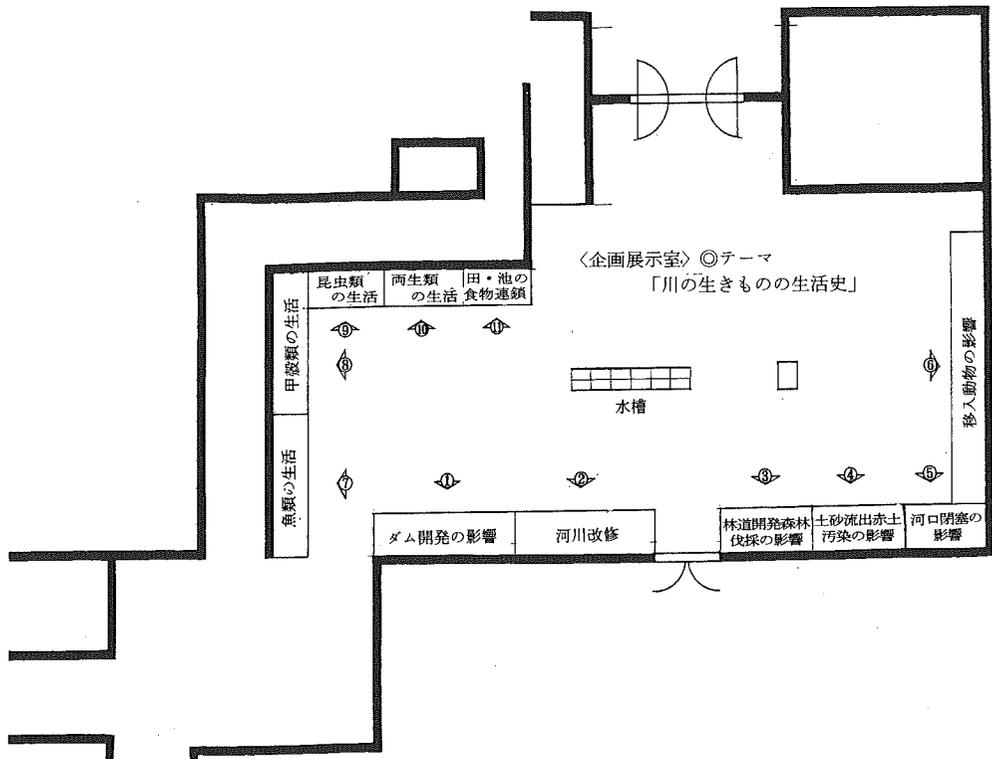
〈コーナー展示レイアウト図面 A〉



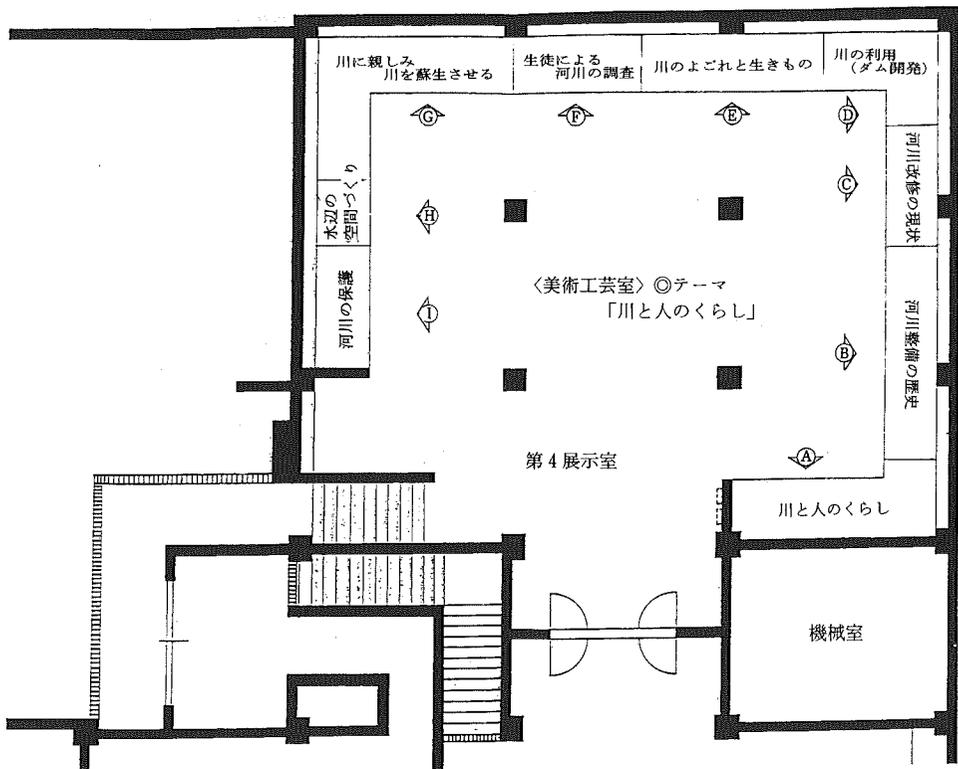
〈コーナー展示レイアウト図面 B〉



〈コーナー展示レイアウト図面 C〉



〈コーナー展示レイアウト図面 D〉



3 企画展

(1) 平成4年度「新収蔵品展」(担当：與那嶺一子)

会 期：平成5年5月11日(火)～5月30日(日)

会 場：企画展示室及び第三展示室

〔開催趣旨〕「新収蔵品展」は、前年度に寄贈され、収集し、購入された資料を一堂に集め、広く一般に公開するとともに、今後の展示に役立てることを目的として実施するものである。

今回の新収蔵品展には、在米沖縄文化財調査(文化課)の成果として寄贈されたイフク・コレクション(1,263点)も含まれており、文化財の里帰りの促進を図るためにも意義のあるものとなるであろう。

〔展示内容〕企画展示室の固定ケースには、イフクコレクションと自然史の剥製やレプリカ資料を展示した。また、企画展示室中央には、沖縄関係雑誌類の展示を行った。

第三展示室の壁ケースには、考古・民俗・歴史・美術工芸資料を展示、中央の三角ケースには、歴史の文書資料を展示した。

〔展示目録〕

寄贈の部：イフクコレクション・ホオロクシギ他・シャコ貝製斧・石斧・港川人想定全身像複製・白川姓系家譜・旧中城御殿礎石・東姓家譜支流・「漂到琉球国記」(レプリカ)・宮古式土器・羊毛青地花織着物他・絹灰色地経緯に着物他・金茶地龍瑞雲模様縞珍唐織衣裳・麻浅地松竹梅散らし文様衣裳他・木綿麻白地着物他・水甕・風弾・箴・厨子甕の蓋・魚網(苧麻製)・三線棹材・鯉節削り器・琴(古箏「楓」)

移管の部：厨子甕(古我知焼)

収集の部：タカブシギ・趙樸初書・謝花雲石書(楷書他)・子ども着(女子用/男子用)

購入の部：「寫津琉球軍精記」・「琉球事件」・「征台紀事」・「萍水奇賞」・すず製抱瓶・「亜墨利加國條約並税則」他・ギンガメアジ(レプリカ)他・ルソン南蛮壺・泡盛壺・朱漆楼閣山水人物沈金盆・辻が花染裂他

なお、展示に際してパンフレット「平成4年度新収蔵品展」を刊行し、その中で主な展示物を写真で紹介するとともに、新収蔵品の全目録を掲載した。なお、同目録は、『沖縄県立博物館年報 No.25』にも掲載されている。

〔開会式及び感謝状授与式〕平成5年5月11日(火)午前10:00館長室にて、寄贈者(屋部公子氏他3名)にて感謝状授与式をとりおこなった。その後午前10:30に、企画展示室入り口で開会式及びテープカットが行われ、企画展・平成4年度「新収蔵品展」が開会した。

(2) 芭蕉布と平良敏子 (担当：與那嶺一子)

会 期：平成5年7月6日(火)～7月25日(日)

会 場：企画展示室及び第三展示室

〔開催趣旨〕 沖縄特産の芭蕉布はかつて沖縄の衣生活の中心をなすものであった。各家庭に芭蕉の畑と機(はた)が備えてあり、家人が織った芭蕉布は老若男女の別なく幅広く愛用されていた。戦後は生活様式の変化により芭蕉布の伝統もとだえそうになったが、大宜味村喜如嘉では平良敏子氏の情熱と努力によってみごとにこれを復活させ村の婦人たちの共同作業で伝統技術が受け継がれ、「喜如嘉の芭蕉布」の名称で国の重要無形文化財に指定されている。

平良氏は、「喜如嘉の芭蕉布」保存会や事業協同組合の代表者として伝統的な芭蕉布の復興と継承に尽力する一方、独自の感性と工夫によって現代生活にマッチした独創的な作品を生み出し、工芸作家としての幅広い制作活動は国際的にも高く評価されている。

この企画展では、平良敏子氏の作品約50点を中心に展示を構成し、平良氏の製作活動の歩みを通して芭蕉布の過去と現在を紹介しながら、芭蕉布の未来を展望した。

〔開催形式〕 当館が主催し、喜如嘉芭蕉布事業協同組合の後援を得た。

〔展示内容〕

芭蕉とは：

芭蕉とはどういう植物か、また、世界ではどのように分布しているのかを、文字パネル・写真パネル等を使って紹介した。また、芭蕉と比較する意味で、アバカなど類似の繊維を展示した。

史料に見る芭蕉布：

かつて、沖縄の衣生活の中心で、また、経済をうるおす貢物・交易品であった芭蕉布を、歴史資料(文書)や写真パネル・文字パネルを通して紹介。

また、絵画資料を使って芭蕉布がどのように着用されていたかを展示した。

芭蕉布がどう使われたか：

芭蕉・芭蕉布が、昔はどう使われたかを展示した。衣料としての利用度が最も高く、貴族から庶民までの幅広いバリエーションがあったことを紹介するとともに、それ以外に、使われた例を展示した。

芭蕉布ができあがるまで：

芭蕉布ができるまでの製作工程を、写真パネルと製作段階の実物資料で紹介した。

芭蕉に触ってみよう：

芭蕉布の感触・芭蕉の糸の細かさ粗さを実際に手に触れて体験してもらった。

平良敏子の世界：

平良敏子の作品約50点余を紹介した。伝統的な喜如嘉の芭蕉布から、蘇枋・茜・福木などの染料を使って染めた芭蕉布や、木綿・絹・パインとの混紡を試みた作品などから、新たな芭蕉布の世界を展開した。

〔展示目録〕

芭蕉とは：喜如嘉の糸芭蕉(写真パネル)・芭蕉について(文字パネル)・芭蕉麻の世界分布地図・フィメルアバカの繊維と糸・マニラヘンプの繊維と糸・苧麻の糸・芭蕉の繊維と糸・バゴボ族の機

史料に見る芭蕉布：『李朝実録』より（文字パネル）・芭蕉の輸出量／『歴代宝案』より（文字パネル）・『南島雑話』より（写真パネル）・風俗図（写真パネル）・『琉球談』（写真パネル）・『歴代宝案』（台湾本）・『沖繩志』・『琉球談』・「芭蕉布物語」『民藝』・坂本万七写真・魚売りの図・芭蕉の図・『江戸上り行列図』（写真パネル）・琉球風俗画全

芭蕉布がどう使われたか：芭蕉紙・鄭嘉訓書「諸家詩」（芭蕉布本）・芭蕉桐板黄色地総緋上衣・芭蕉茶地経縞上衣・芭蕉茶地経縞に紹織上衣・芭蕉麻浅地格子に緋上衣・黒朝衣・芭蕉経縞紹織子供着・芭蕉子供着・芭蕉経縞上衣・芭蕉経縞に型付上衣・芭蕉緋つなぎあわせ上衣・芭蕉総緋反物・芭蕉総緋上衣・芭蕉絹綾中

芭蕉布ができてあがるまで：製作工程写真パネル（17枚）・芭蕉の糸（一本の芭蕉から取れる糸のサンプル）・繊維・ウバサガラ・糸（ウンジョウウキ付き）・シーグ・エービ（竹ばさみ）・撚りかけして総になった糸・緋糸・染めた糸・芭蕉布裂・高機・糸車

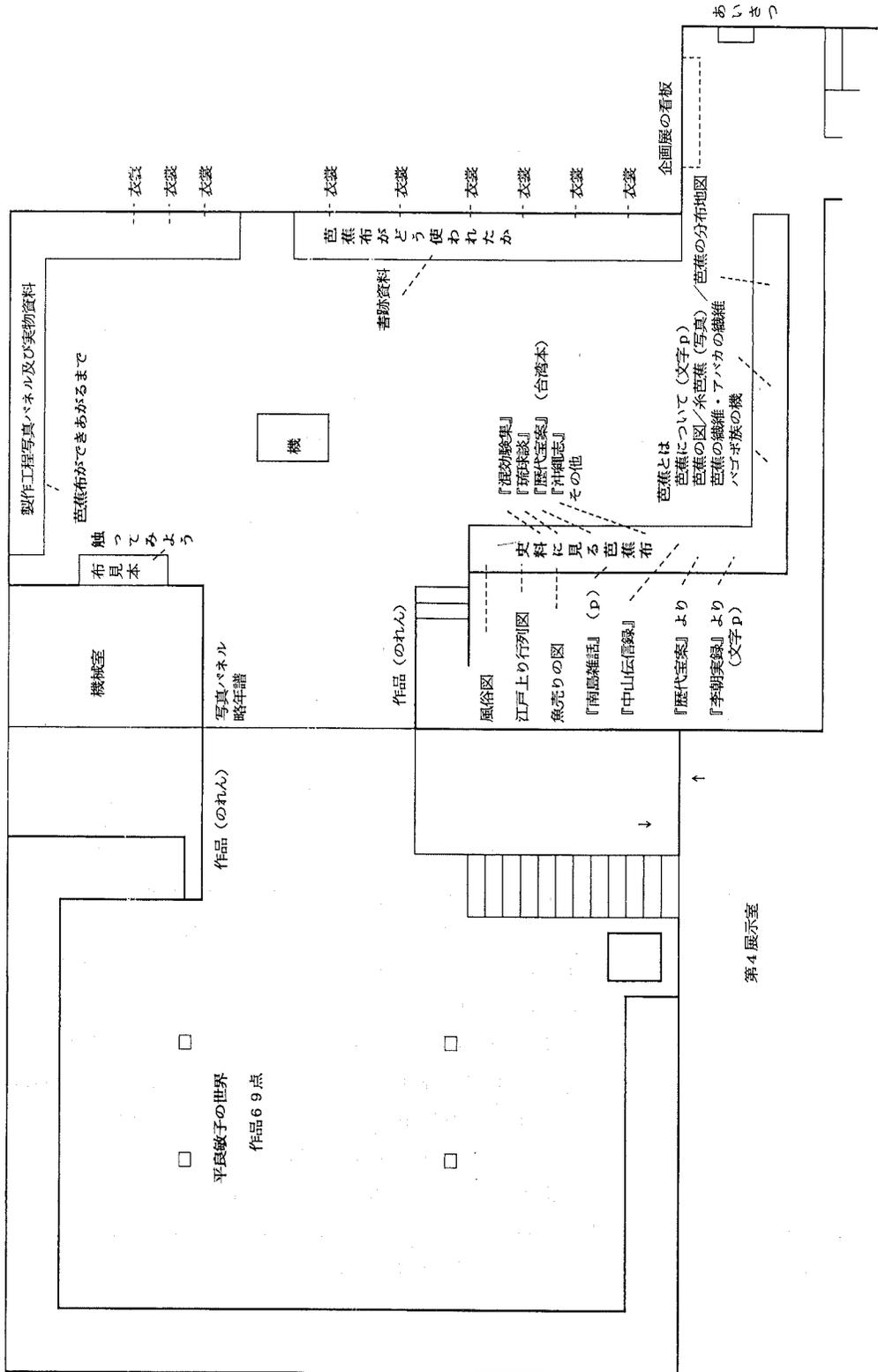
触ってみよう：布見本（座布団用）・布見本（帯用）・布見本（着尺用）

平良敏子の世界：平良敏子（写真パネル）・平良敏子年譜・平良敏子作品69点（詳細は図録を参照のこと）

〔付 記〕 この企画展開催中に、関連行事として文化講座「芭蕉布とともに」（文化講座の頁を参照）を開催した。また、図録として『平良敏子と芭蕉布』を刊行した。



企画展「芭蕉布と平良敏子」展示レイアウト



第4展示室

(3) 刻まれた歴史—沖縄の石碑と拓本展 (担当：萩尾俊章)

会 期：平成5年(1993)10月5日(火)～10月24日(日)

会 場：沖縄県立博物館2階企画展示室及び美術工芸室

〔開催趣旨〕 沖縄の歴史の一コマを物語る石碑は、町のなかに、あるいは路傍に、さりげなく立ち、私たちに何かを語りかけている。

戦前、沖縄には歴史・文化的な事柄を刻んだ多くの石碑があった。それは歴史的にも古い貴重な記録であった。しかし、その多くが戦災により失われた。幸いにも破壊をまぬかれた石碑はそのまま現地に保存されたり、博物館などに収蔵されているものもある。

今回の展示会では、当館に保存された戦後このかたほとんど公開されることのなかった石碑を実際に展示した。これらはその素材や文章、文様なども直接見る機会のなかったものもある。

また、戦災で消失した県内の石碑については、その一部が研究者の手によって採拓されているものもあるので、拓本の形で展示した。さらに現存する石碑で摩耗し読みづらくなったものでも、拓本にすることにより、判読が可能になるものもあるので、拓本の形で補完した。

なお、沖縄諸島・宮古・八重山諸島をはじめ、王国時代に関わりの深かった県外に残る資料についても拓本やパネルによって展示紹介した。

琉球史への関心が高まりつつある今日、沖縄の歴史を語るこの展示会をとおして、石碑への理解を深めていくことを目的として開催した。

企画展開催の期間中は7,000余の来館者があり賑わい、大いに関心を集めた。

〔開催形式〕 当博物館が主催し、那覇市教育委員会・沖縄県文化財修理技術者協会・(株)沖縄フジカラーの協力で開催した。

〔展示内容〕 展示コーナーは、①古琉球期の石碑(1609年の島津侵攻以前の石碑を紹介するコーナー)、②河川・橋梁にたつ石碑(河川や橋の改修に関する石碑のコーナー)、③県外の琉球関係石碑(県外に所在する琉球関係の石碑を紹介するコーナー)、④墓碑、⑤湧泉・池にたつ石碑・⑥外来の思想と信仰にかかわる石碑(儒学・風水・天妃など外来の思想信仰に関する石碑を紹介するコーナー)、⑦様々な石碑(由来記・日時計・方位石など種々の石碑を紹介するコーナー)、⑧石碑文様の変遷(石碑に刻まれた文様の歴史の変遷をたどるコーナー)、⑨採拓方法及び道具を紹介するコーナーの9部門に分けて展示した。

沖縄最古の碑文「安国山樹花木記碑」(1427年)をはじめ、かな文字の「真珠湊碑文」、円覚寺の創建を記した「円覚寺禅寺記」、さらには「琉球館後碑文」など県内外の各地に残る石碑と拓本約60点余りを紹介した。とくに今回は、那覇市教育委員会の協力を得て、初公開となる県外の琉球関係碑文を6点(拓本)を展示した。また、展示会に際しては大里喜誠氏から文字が白ぬきである「源遠流長」の拓本も提供していただき、拓本の妙味を鑑賞することができた。

〔関連催し物〕 毎月の博物館文化講座の一環として本展示会にあわせて、専門家の講師をまねいて、実技指導をかねた拓本教室と拓本の表具教室を実施した。

I 拓本教室 10月16日(土)午後2時～5時

講師：崎間 麗進(沖縄県文化財修理技術者協会副会長)

阿波根直孝(沖縄県文化財修理技術者協会会員)

運天美和子(沖縄県文化財修理技術者協会会員)

定員：20名

専門講師による拓本の採り方の実技指導をした。「あなたの拓本に挑戦してみませんか」をうたい文句に募集をはじめたら、定員もすぐにいっぱいになり、見学がほぼ同数という盛況ぶりであった。参加者ははじめての体験で少々緊張しながらも、実際に拓本をとることができたことで充実した表情でした。はじめてとる拓本にしては上手であるという講師の高い評価であった。

II 表具教室 10月23日(土) 午後2時～5時

講師：当間 博(表具師)

定員：20名

上記の自分で実際にとった拓本を表具してみる講座で、専門の表具師を講師に開設した。講師のわかりやすい実技指導で、表具のわざを体験し、実際に裏打ちできたことで大満足の様子だった。



拓本教室(講師の運天美和子氏)



テープカット



湧泉・池に立つ石碑

(4) 琉球王朝時代の楽器－三線と御座楽 (担当：金城 透)

会 期：平成5年10月25日(月)～平成6年2月20日(日)

会 場：企画展示室

〔開催趣旨〕 沖縄には「組踊り」などの素晴らしい民俗芸能が数多くあり、現在に継承されていて祭りの中で演じられている。それらの芸能文化を支えたもののひとつに三線やチジンなどの楽器がある。その楽器の中でも三線は琉球音楽の主要楽器として一般庶民にまで普及し、親しまれ愛されてきた楽器であり、沖縄の心とも言えるものである。

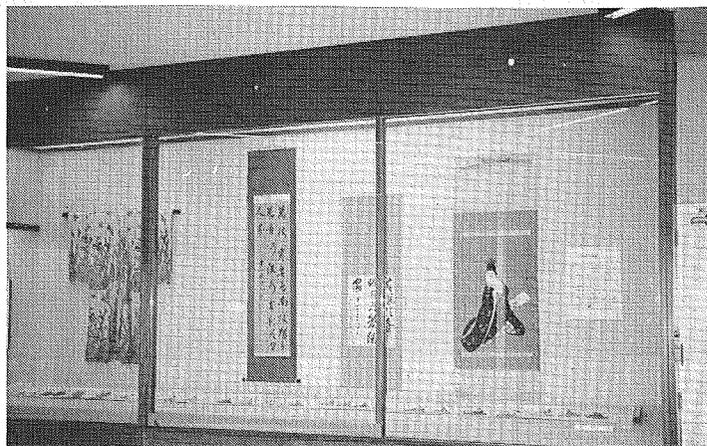
今回の展示では、当博物館に収蔵されている三線や江戸上りの御座楽で演奏された貴重な楽器資料を公開することによって、沖縄の楽器に理解を深めていただくことを目的として実施した。

〔展示内容〕 企画展示室を、三線の製作工程から御座楽までの4部構成に区分し展示した。

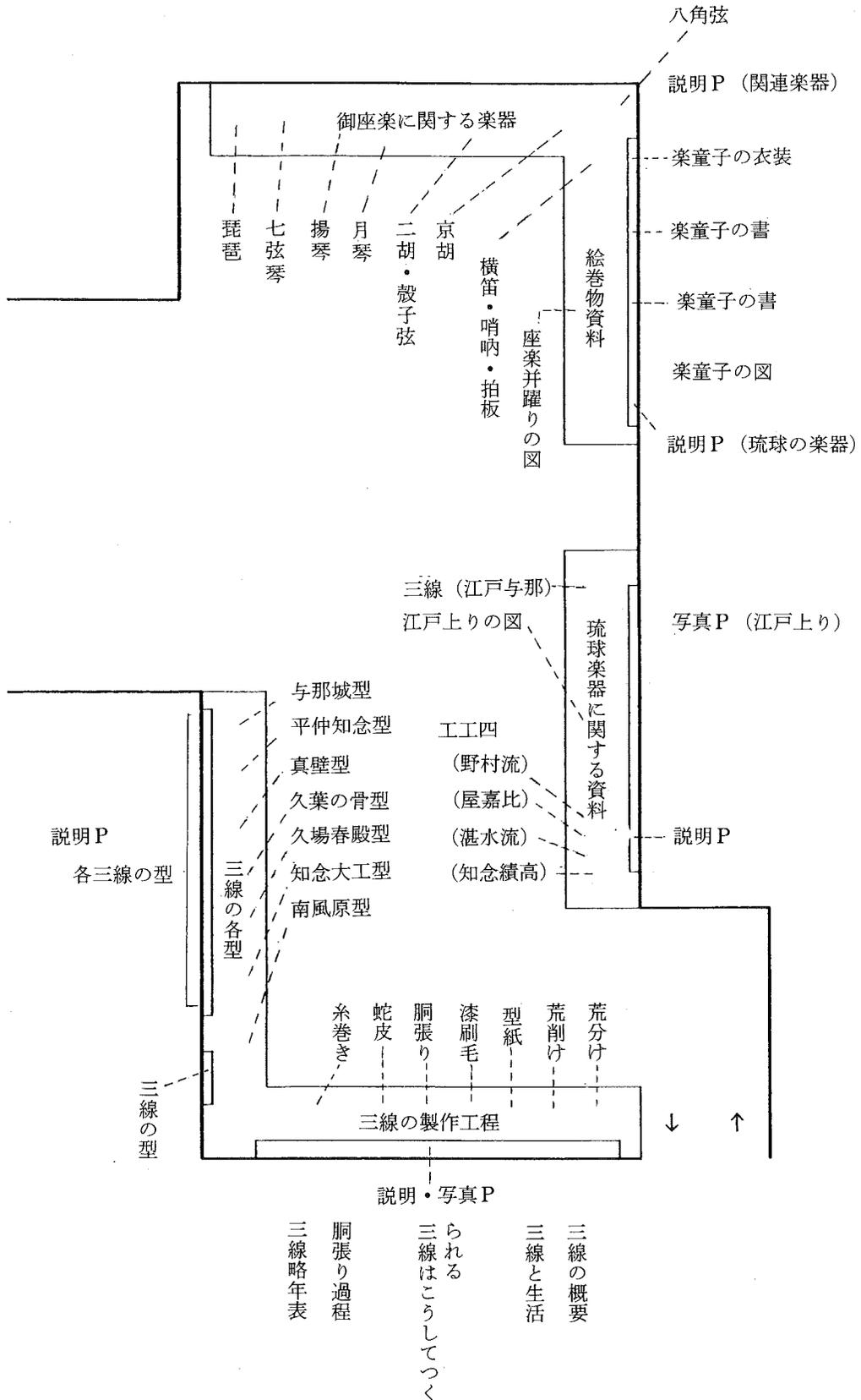
- 1 三線の製作工程
- 2 三線の各型
- 3 琉球楽器に関する資料
- 4 御座楽に関する絵巻資料と御座楽の楽器

〔展示目録〕

- ① 三線製作工程道具 (棹・胴・型紙・胴張り・糸巻き・蛇皮・漆刷毛等)
- ② 三線の各型 (南風原型・知念大工型・久場春殿型・久葉の骨型・真壁型・平仲知念型・与那城型)
- ③ 江戸与那 (県指定文化財)
- ④ 工工四 (知念績高・湛水流・屋嘉比・野村流)
- ⑤ 御座楽関係の楽器 (穀子弦・京胡・月琴・哨呐・二胡・拍板・八角弦・琵琶・揚琴・横笛・七弦琴)
- ⑥ 冊封使行列絵巻、琉球人座楽并躍りの図、江戸上り行列図
- ⑦ 楽童子関係資料 (楽童子の木綿白地飛鳥流水蛇籠葵菖蒲文様衣装・楽童子向傑の五言絶句、楽童子馬文英の五言詩、楽童子の図)



『琉球王朝時代の楽器－三線と御座楽』展示レイアウト



4 移動博物館

第17回移動博物館

会 期：平成5年11月20日（土）・21日（日）

会 場：B & G財団伊良部海洋センター体育館

観覧料：無 料

主 催：沖縄県立博物館・伊良部町・伊良部町教育委員会

〔趣旨〕本県はわが国最南端に位置し亜熱帯に属する島嶼県である。その地理的特性を生かし歴史的に日本本土や中国、東南アジアとの交易を盛んに行った地域であり、琉球王国時代から独特の文化が創造され、多くの文化遺産が残されている。これらの受け継がれてきた文化は貴重な遺産であり、次代へ保存継承していかなければならない。そのため沖縄県立博物館では、多くの県民が本県の文化を正しく認識できるよう、常設展「沖縄の歴史と文化」の展示を行っている。また、当館にふだん足を運ぶことの出来ない、離島や遠隔地の方々にも移動博物館の展示を見てもらうことによって、文化の広域普及を図っている。第17回は伊良部町において開催した。

〔内容〕〈展示会〉〈ビデオ放映〉〈文化講座〉〈バードウォッチング〉で構成した。展示は考古・歴史・自然・美術工芸・民俗の5分野別とし、それに戦前の沖縄の風景を写した写真パネルを加えた。また特に今回は、伊良部島関係の野鳥標本を多く展示した。展示会場にビデオ放映コーナーを設け沖縄の伝統工芸や自然に関するビデオを放映した。文化講座は展示会場の二階で催した。

〔ビデオ放映〕「琉球の風物」「琉球の民芸」「東洋のガラバゴス」「酒だ忍法コノハチョウ」「トンボの愛はハート型」他

〔文化講座〕日時：11月20日（土）午後7時～9時

場所：B & G財団伊良部海洋センター体育館二階

対象：学生、一般

演題：「伊良部の自然」

講師：池原貞雄（琉球大学名誉教授）

〔バードウォッチング〕日時：11月21日（日）午前8時～12時

対象：小学生

講師：嵩原健二（県立博物館指導主事）

〔入場者数〕	展示会	1,738人	
	文化講座	58人	
	バードウォッチング	26人	合計1,822人

〔展示品目録〕

【考 古】

港川人想定復元全身像、貝斧（浦底貝塚出土）、港川人頭骨《複製》、大山式土器（国指定史跡大山貝塚出土）、下田原式土器（下田原貝塚出土）、褐釉陶器（平久保遺跡出土）、宮古式土器、青磁碗（国指定史跡勝連城跡出土）、青磁碗（国指定史跡首里城跡出土）、貝斧《複製》（フィリピン出土）

パネル

勝連城跡空中写真、具志川城想定復元鳥瞰図、首里城跡（写真）、勝連城跡（写真）、沖縄島考古編年表、先島考古編年表、沖縄古代史地図、先島古代史地図、先島文化の源流、大交易時代とグスク、日本近海の海流

【歴史】

拓本・パネル

独逸皇帝博愛記念碑（裏表）、与那覇勢頭豊見親逗留旧蹟碑、国王頌徳碑、ようどれのひのもの（裏表）

古銭類

琉球通宝（円形）、琉球通宝（楕円形）、洪武通宝、嘉慶通宝、康熙通宝、紹熙通宝、永楽通宝、咸豊通宝、光緒通宝、大中通宝、淳熙通宝、嘉泰通宝、開禧通宝、瑞平通宝、元豊通宝、嘉熙通宝、崇寧通宝、乾隆通宝、咸字元宝、天聖元宝、鳩目銭、寛永通宝、金円・世高・大世

勾玉類

リング（10個連）、リング（8個連）、リング（小勾玉にビーズ付き）、リング（20個連）、リング（8個連）、リング（ビーズ）

印章

尚育王の印

金工品

かんざし、聞得大君御殿雲龍黄金簪

典籍類

おもろさうし（複製本）、中山世鑑（複製本）、沖縄志、江戸上行列（瓦版）、琉球三省並三十六島図（朝鮮琉球全図）

その他

尚寧王妃墓誌

写真パネル

ランドサット沖縄諸島写真

～戦前の沖縄～

〈鎌倉芳太郎氏撮影〉

3代尚真王御後絵、首里城正殿、白銀門、7代尚寧王御後絵、首里城北殿、円覚寺仏殿、13代尚敬王御後絵、歓会門、首里那覇全景、18代尚育王御後絵、瑞泉門

〈坂本万七氏撮影〉

円覚寺山門、青空教室、ふろしき糊引き（那覇久茂地）、識名園、竹製品を運ぶ荷馬車、機織り、玉陵、那覇東町の布町、葬式行列、守礼門、木臼づくり、市場風景、ハンタン山、壺屋風景、カメを売る店、サーターヤー風景、壺屋の陶房、墓（那覇辻原）、サーターグルマ、芋（うー）びき、魚市

〈その他〉

首里旧城図

～沖縄戦～

戦闘中の米軍、砲弾をうけた園比屋武御嶽石門、日本軍を偵察する米軍、首里城の一角—1945—、1945年6月28日米軍、摩文仁を占領、焼け跡の残る首里高校

～戦後から現在～

山から下りる避難民、首里城瑞泉門、いち早く復活された学校教育、首里城龍樋、規格住宅（ツ
ー・バイ・フォー）、天女橋と弁財天堂、崇元寺の琉米文化会館、守礼門、首里城正殿

～泡盛関連写真～

八重山風俗図、もろみのかくはん、タイ米の輸入、もろみを蒸留器へうつす、黒こうじ菌の胞
子、蒸留器、こうぼ菌、瓶詰め作業、シンセキと洗米、琉球泡盛、米蒸しの作業、泡盛の鑑評
会（現在）、こうじ作業—こうじ菌をまぜる、店頭の泡盛（現在）、こうじ作業—ティーミ

【自然史】

古生物

マンモス（全身骨格）、プロトケラトプス（全身骨格）、プロバクトロサウルス（全身骨格）、恐
竜の卵の化石、コレニア（世界最古の化石）、ミヤコノロジカ、イノシシ

沖縄の生物

〈写真パネル〉

～天然記念物～

コノハチョウ、ヤンバルテナガコガネ、ナミエガエル、ホルストガエル、イボイモリ、クロイワ
トカゲモドキ、リュウキュウヤマガメ、カンムリワシ、ノグチゲラ、ケラマジカ、イリオモテヤ
マネコ、ダイトウオオコウモリ

～鳥類～

バン、シロハラ、カツオドリ、ホウロクシギ、セッカ、アマサギ、カラスバト、キョウジョシ
ギ、コサギ、キンバト、キアシシギ、アカショウビン、メジロ、アカヒゲ、コミミズク、ヤンバ
ルクイナ、サシバ、アオサギ、アオバズク、サンコウチョウ、クロサギ、キジバト、ノグチゲ
ラ、ズアカアオバト、カワセミ、ムナグロ、カンムリワシ、シロハラクイナ、ササゴイ、オオバ
ン、アカハラダカ、ダイシャクシギ、カルガモ、トラツグミ、ベニアジサシ、エリグロアジサ
シ、コチドリ、ミフウズラ、セイタカシギ、リュウキュウヨシゴイ、ヒヨドリ、オオクイナ、イ
ソヒヨドリ

～両生・ハ虫類・哺乳類～

イボイモリ、ナミエガエル、ホルストガエル、リュウキュウヤマガメ、トゲネズミ、ケナガネズ
ミ、キンノウエトカゲ、ヤンバルテナガコガネ、ケラマジカ、イシカワガエル、イリオモテヤマ
マネコ、クロイワトカゲモドキ

剥製標本

～鳥類～

ツミ、ヤマシギ、トラツグミ、アカハラダカ、バン、カルガモ、アオバズク、ズアカアオバト、
マガモ、アオサギ、コミミズク、ハシブトガラス、コガモ、ヒヨドリ、カラスバト、アカショウ
ビン、サシバ、ヒクイナ、ノグチゲラ、サンコウチョウ、ヨタカ、キジバト、イソヒヨドリ、ヤ
ンバルクイナ、ムナグロ、シロハラ、ベニアジサシ、セレベスコノハズク、ゴイサギ、ウグイ
ス、ホウロクシギ、リュウキュウヨシゴイ、ササゴイ、キンバト

～昆虫・ハ虫類・哺乳類～

イリオモテヤママネコ、ヤンバルテナガコガネ、セマルハコガメ、ハブ

【美術工芸】

絵画

進貢船の図

彫刻

玉陵石彫獅子（レプリカ）1対

書跡

鄭嘉訓書（五言絶句）、伝渡嘉敷兼副書（古聖十無益）

織物

芭蕉麻浅地格子に緋上衣、宮古上布裂帖、御絵図（復元）

紅型

絹稻妻に花の丸文様衣裳（復元）、紅型型紙

漆器

黒漆山水楼閣螺鈿六角食籠

陶器

〈壺屋焼〉

緑釉嘉瓶、アングガーミ、緑釉花卉型盛皿、赤絵山水急須、赤絵徳利、なまこ釉からから、呉須
絵山水竹文筒花生

〈湧田焼〉

鉄絵碗

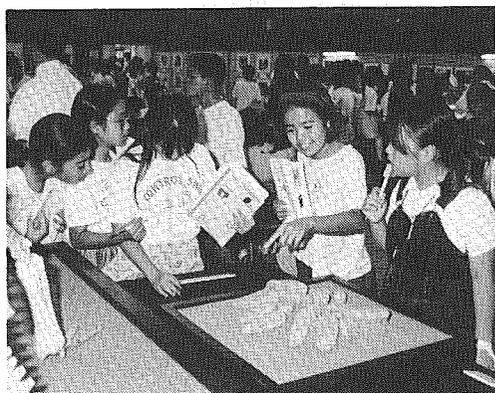
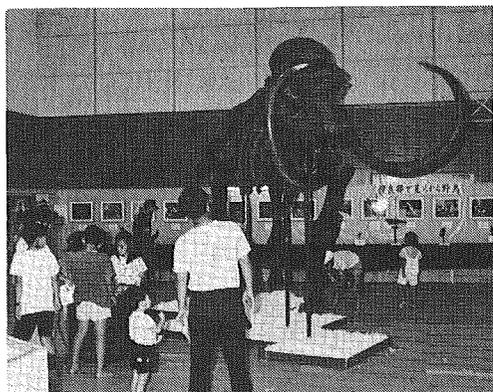
【民俗】

漁獵用具

タマンパーキー、海ボーチャー、チズカ、ウミフゾウ（カタツパ・木）、タマウキ、ティガネー
（魚鉤）、ユートゥイ（伝馬・糸満）、ミーカガン、スルチカー石、チーバク、宝贝鍾の網、海テ
ィール、ワラグチ（ワラジ）

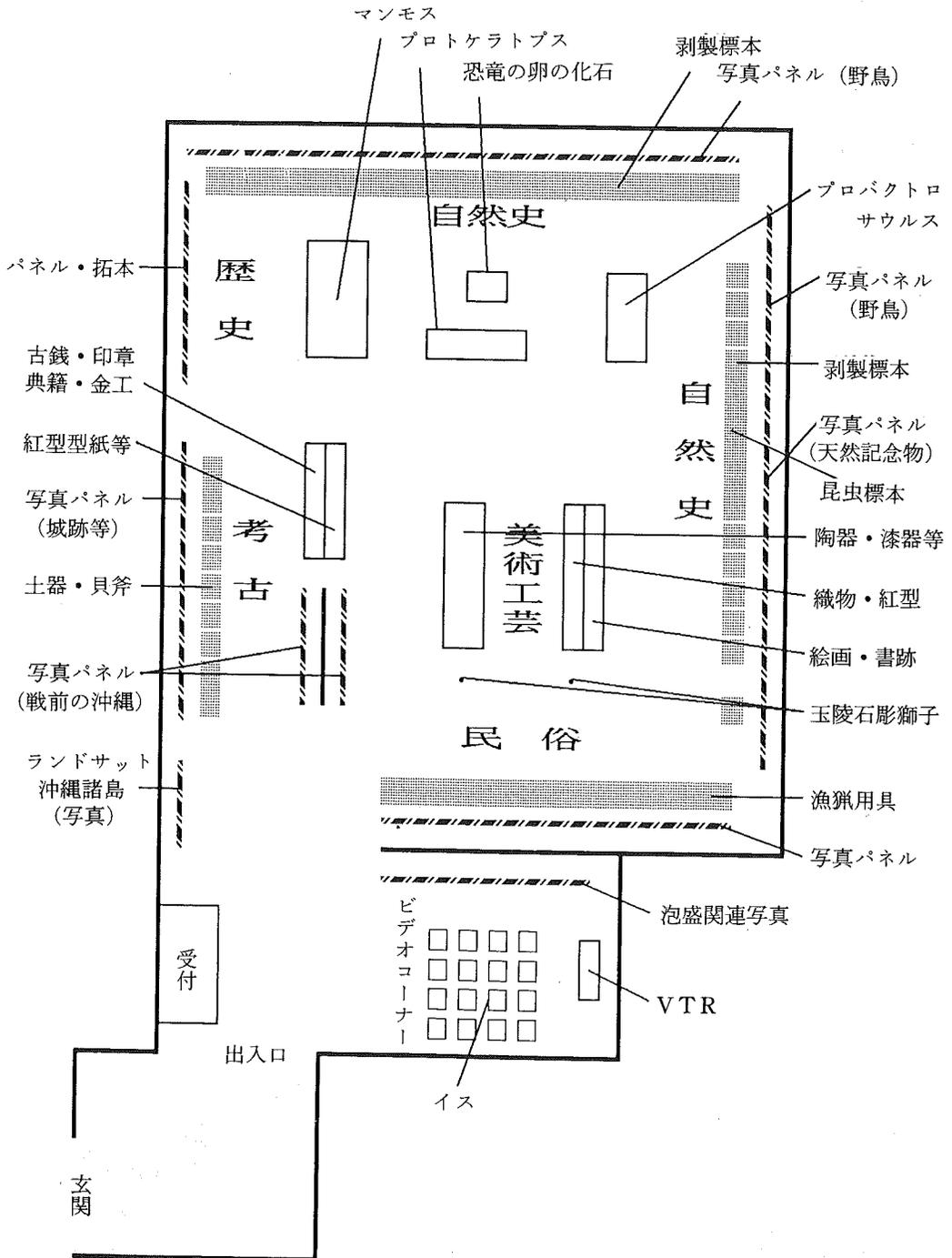
写真パネル

多良間の八月踊り、エイサー（千原）、西表の節祭（祖納）、多良間のスツウブナカ、パーントゥ
（島尻）、ムシャーマ（波照間）、綱引き（那覇）二十日正月（比嘉）、ヤンプナガ（与那国）、ウ
マチャー（久米島）、ナーバイ（砂川）、シヌグ（安田・奥）、プーリィ（石垣）、アングマ（石
垣）、イザイホー（久高）、ヤーマスブナカ（来間）、ウスデーク（具志堅）、八月踊り（屋部）、
マユンガナシイ（川平）、ウンジャミ（塩川・比地）、祖神祭（大神・島尻・狩俣）、ユークイ
（池間・西原・佐良浜）



展示見学風景

第17回移動博物館展示略図
 (B & G財団伊良部海洋センター)



Ⅳ 教育普及活動と教育普及の取り組み

1 活動の概要

本格的な生涯学習時代を迎えて博物館に対する県民の関心が高まってきている昨今、博物館における教育普及活動への期待も次第に大きくなってきている。博物館は資料をわかりやすく展示し、多くの人に見ていただくことを使命とするが、同時に知的、文化的な刺激を客に与え、地域における文化の発進基地としての役割も担わされている。最近の傾向として博物館を訪れる人々のニーズも多様化し、利用者それぞれがいろいろな目的をもっている。このような来館者の要求に少しでも多く応えていくため、当館では、今年度もまた新たな事業を実施し教育普及活動の充実を図っていくことにした。子ども体験学習教室の開設、およびボランティア活動実施要項を定め、本格的にボランティアの育成に努めてきたことなどがそれである。何れも、週休二日制が定着していくなかで多くの県民に博物館学習の機会を提供し、かつ自己啓発をはかっていく場とすることを目的としている。

以下、今年度を実施した教育普及活動を列挙し、その主な内容について詳述する。

- 1、博物館文化講座の開催（毎月1回で224回～235回までの12回実施）。
- 2、移動博物館（伊良部町）開催。
- 3、夏休み「歩く・見る・作る」教室の実施。
- 4、子ども体験学習教室の実施。
- 5、ポスター・博物館案内リーフレット・博物館だより等の編集・発行。
- 6、ボランティア活動事業の実施。
- 7、博物館を利用する団体への研修サービス。
- 8、観覧者への展示室解説
- 9、学校による博物館学習の事前打ち合わせ。
- 10、児童生徒団体見学者へのオリエンテーション
- 11、児童生徒の夏休み宿題相談コーナーの開設
- 12、団体見学者へのビデオサービス
- 13、博物館事業のマスコミ等への広報活動。
- 14、友の会への指導や援助。

2 博物館文化講座

第224回 「土器の話」

日時・場所：4月17日（土） 当館講堂

参加者：30名

講師：島袋 洋（県教育庁文化課専門員）

内容：県内における発掘調査の成果についての説明の後、考古学編年の基礎となる土器の見方やルーツなどの説明がおこなわれた。

第225回 「米国の博物館活動」

日時・場所：5月15日（土） 当館講堂

参加者：37名

講師：前田 真之（県立博物館指導主事）

内容：学芸員国外研修において、米国の博物館活動を視察された前田真之氏が米国の博物館展示の特徴やボランティア活動についての説明がおこなわれた。

第 226 回 「ウッチンの話」

日時・場所：6月19日（土） 当館講堂

参加者：90名

講師：片岡 淳（琉球大学助教授）

里井 洋一（琉球大学助教授）

内容：近世王府による占買について、ウッチンを事例にしての説明と染料としてのウッチンについての学習がおこなわれた。

第 227 回 「芭蕉布とともに」

日時・場所：7月17日（土） 当館講堂

参加者：250名

講師：平良 敏子（染織家）

内容：企画展「芭蕉布と平良敏子」の関連行事として、大宜味村で生まれ育った平良敏子氏が芭蕉布の復興にそそいできた半生について語った。

第 228 回 「生きものにやさしい川づくり」

日時・場所：8月21日（土） 当館講堂

参加者：74名

講師：水野 信彦（愛媛大学教授）

内容：特別展「沖縄の川と生きもの」の関連行事として、水野信彦氏が川の生きものに配慮した新しい河川整備工法のあり方を説明し、魚などの生態を踏まえた工法などを提起した。

第 229 回 「サンバの話」

日時・場所：9月18日（土） 当館講堂

参加者：30名

講師：久貝 勝盛（県立博物館指導主事）

内容：秋に沖縄を訪れるサンバの生態や人間との関わりを中心に説明し、サンバの保護を訴えた。

第 230 回 ①「拓本のとり方」

日時・場所：10月16日（土） 当館講堂

参加者：23名（定員あり）

講師：城間 麗進（沖縄県文化財修理技術者協会副会長）

阿波根直孝（沖縄県文化財修理技術者協会会員）

運天美和子（沖縄県文化財修理技術者協会会員）

内容：当博物館の所有する石碑を使い、拓本のとり方の実演と実技指導がおこなわれた。

②「拓本表具方法」

日時・場所：10月23日（土） 当館講堂

参加者：23名（定員あり）

講師：当間 博（表具師）

内容：「拓本のとり方」教室で採拓したものを使い、表具する過程の実技指導がおこなわれた。

第231回 「琉球王朝絵画と中国絵画」

日時・場所：11月20日（土） 当館講堂

参加者：58名

講師：神山 泰治（琉球大学教授）

内容：文部省在外研究員として中国に滞在された神山泰治先生が、中国留学の体験談を加味しながら、中国画と琉球画についての説明がおこなわれた。

第232回 「野鳥に親しむ」

日時・場所：12月18日（土） 漫湖公園

参加者：40名（定員あり）

講師：嵩原 建二（県立博物館指導主事）

久貝 勝盛（県立博物館指導主事）

瀬名波 任（県立博物館指導主事）

内容：野鳥観察のための基礎的知識と双眼鏡の使い方の説明がおこなわれ、野鳥観察をしながら、自然に親しむ方法を学んだ。

第233回 「寄りもの話」

日時・場所：1月22日（土） 当館講堂

参加者：47名

講師：當眞 嗣一（県立博物館教育普及課長）

内容：実際に海岸に流れ着いた「寄りもの」を展示し、漂着物をみながら文化の交流や文物の移動について説明がおこなわれた。

第234回 「ホームビデオ製作」

日時・場所：2月19日（土） 当館講堂

参加者：15組（定員あり）

講師：西村 治良（NHK 沖縄放送局ディレクター）

内容：ビデオを持参し、撮影の基礎知識を学習したあと、各々撮影をおこない作品の批評会がおこなわれ、楽しく進められた。

第235回 「歴史の道を歩く」

日時・場所：3月19日（土） 首里近郊

参加者：45名（定員あり）

講師：萩尾 俊章（県立博物館学芸員）

内容：コース日程の説明の後、雨模様の天気の中を出発し、弁ヶ嶽参詣の歴史の道をたどりながら歴史の追体験がおこなわれた。

3 夏休み「歩く・見る・作る」教室

「スケッチ会」

日時・場所：8月15日（日） 龍潭周辺

参加者：19組（定員あり）

講師：田場 健章（琉球大学附属中学校教諭）

内容：用具の使い方やスケッチの要領などの説明後、弁財天堂周辺で気に入った風景を描き、批評会を取り入れてのびのびとした学習がおこなわれた。

「自然観察会」

日時・場所：8月22日（日） 末吉の森公園

参加者：34組（定員あり）

講師：安座間安史（北山高等学校教諭）

内容：森とそのしくみをテーマに生態系についての説明の後、落葉の下に住むいろいろな生きものたちを虫メガネを使い観察した。

「石器づくり」

日時・場所：8月29日（日） 当館館庭

参加者：11組（定員あり）

講師：上地 克哉（県教育庁文化課専門員）

内容：北海道産の黒曜石を使い、親子で石鏃（矢じり）などの打製石器をつくり、原始時代の追体験がおこなわれた。

4 子ども体験学習教室

〈事業の経過〉

子ども体験学習教室の事業は、平成5年度から博物館の新規事業として出発した。

〈趣 旨〉

平成4年度から第2土曜日が休業日となり、それともない子どもたちの活動の機会が増えてきたが、当館では「休業日」を利用し、子どもたちが郷土の歴史や自然、文化を自ら進んで学べるよう平成5年度からこの事業をスタートさせた。

ともすれば生活体験のとほしくなりがちな子どもたちに多くの活動体験の場を提供し心豊かな子どもを育てていくのが本教室の目的です。

〈実施講座〉

「野鳥はともだち」

講師：玉城常雄（開邦高等学校教諭）

日時・場所：5月8日（土）、6月12日（土）当博物館講堂および末吉公園

参加者：のべ96人

内容：沖縄に生息する野鳥の種類や生態などを学習し、末吉の森にすむ野鳥をくわしく観察した。

「オリジナルの印をつくろう」

講師：大城民子・親泊元高・比嘉康智（雲石同好会）

日時・場所：7月10日（土）、8月14日（土）、9月11日（土）当博物館講堂

参加者：のべ102人

内容：てんこくのなりたちを学び、オリジナルの印をつくった。

「遊びの道具をつくろう」

講師：外原淳（沖縄玩具伝承友の会）

日時・場所：10月9日（土）、11月13日（土）、12月11日（土）

参加者：のべ93人

内容：郷土の玩具“はりこ”について学び、それをもとに自分の作品をつくった。

「史跡をたずねて」

講師：金城明美（平敷屋小学校教諭）、平良信明（鏡原中学校教諭）、新城俊昭（大平高等学校教諭）

日時・場所：1月8日（土）、2月12日（土）、3月12日（土） 首里周辺

参加者：159人

内容：首里周辺の史跡をたずね、郷土の歴史や文化への理解を深めた。

5 ボランティア活動事業

〈ボランティア活動事業の経過〉

平成5年7月1日に沖縄県立博物館ボランティア活動実施要項が施行され、これにもとづき教育ボランティアと資料収集ボランティアの育成に努めてきた。

教育ボランティアは、展示解説、文化講座、体験学習教室、相談室における対応等の教育普及活動全般にわたる補助的な活動を行う。

資料収集ボランティアは、調査研究活動に必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動を行う。

ボランティアとして登録できるものは、原則としてボランティア養成講座を修了したものとし、登録後は解説勉強会で研修をうけながら、活動を続けてきた。

〈趣旨〉

週休2日制が定着しつつあるなかで、生涯学習への要求が高まりつつある。このような時代に多くの県民に学習の機会を提供し、自己啓発の場とすることを目的として、本事業を実施した。

〈事業の実施〉

平成5年度は県教育庁生涯学習振興課主催の教育ボランティア養成講座の運営に参画し、その修了者の中からボランティアの登録を進めていった。

1. 教育ボランティア養成講座（受講者：28名）

「学び続けるということ」

講師：具志堅俊一（JA 宜野座）

日時：7月13日（火）

内容：父親の死により高校を中退した具志堅さんが、33歳で大学を卒業するまでの話をとおして、学ぶということの意義を考えた。

「いまなぜ博物館か」

講師：當眞嗣一（沖縄県立博物館教育普及課長）

日時：8月3日（火）

内容：いま博物館に何が問われているのか、各地の多くの博物館を見てきた當眞嗣一氏が理論と実践の両面からせまっていた。

「アメリカの博物館ボランティア」

講師：前田真之（沖縄県立博物館学芸員）

日時：8月10日（火）

内 容：アメリカにおけるボランティアの具体的な活動事例から、ボランティアの活動が、楽しく自己啓発的なものであることを話した。

「コレクションの収集と管理」

講 師：與那嶺一子（沖縄県立博物館学芸員）

日 時：8月17日（火）

内 容：コレクションを博物館が受入れ、台帳に記載登録するまでのプロセスを、織物などのコレクションに即して学んだ。

「わたしのつくる解説コース」

講 師：瑞慶山昇（沖縄県立博物館学芸員）

上原敏子・金城武子（沖縄県立博物館解説員）

日 時：8月24日（火）

内 容：グループに分かれて、解説してみたい展示室とコレクションを設定し、解説のシナリオをつくった。

「解説体験学習」

講 師：金城透（沖縄県立博物館学芸員）

上原敏子・金城武子（沖縄県立博物館解説員）

日 時：9月3日（火）

内 容：各グループに分かれて、解説を試みた。

2. ボランティアの登録

教育ボランティア養成講座の受講者の中から14名（教育ボランティア11名、資料収集ボランティア3名）が、ボランティアとしての登録を行った。

3. 登録ボランティアの解説勉強会

○「マクドナルドの箱の質問づくり」

日 時：10月5日（火）

○「首里・那覇港区の屏風の質問づくり－観察に目をむけさせる方法」

日 時：11月10日（水）

○「竿ばかりの質問づくり－操作をもとにした質問づくり」

日 時：11月15日（水）

○「南風原文化センターの視察」

日 時：2月16日（水）

○「機織り－外国の機織りと比べながら、地機や高機の仕組みや織物の図柄を学ぶ－」

日 時：3月9日（水）

6 博物館を利用した研修

生涯学習時代を迎え、郷土の歴史や文化、自然について多くのことを学びたいとの要望が高まってきています。これらの要望は、従来学校などの団体が多数をしめてきたが、近年企業などからもその要望が高まってきている。

平成5年度は、企業などが自ら主催し且つ博物館での展示見学を計画している研修に対して、博物館での講演というかたちで側面的な支援を行ってきた。

〈琉球銀行新入行員研修〉

○「三つの名前を持ったウチナーンチュとアメリカ名のヤマトゥンチュ」

ー 2人の異国通事の歩んだ道ー

日時・場所：1993年4月14日（水） 当館講堂

講 師：前田 真之（沖縄県立博物館学芸員）

○「沖縄の歴史と文化」

日時・場所：1993年4月21日（水）

講 師：當眞 嗣一（沖縄県立博物館教育普及課長）

○「沖縄のグスク」

日時・場所：1994年3月24日（木） 当館講堂

講 師：當眞 嗣一（沖縄県立博物館教育普及課長）

<（株）全山形屋労働組合研修>

○「琉球王国について」

日時・場所：1993年5月29日（土）

講 師：當眞 嗣一（沖縄県立博物館普及課長）

<沖縄山形屋従業員研修>

○「沖縄の歴史と文化」

日時・場所：1993年6月22日（火）

講 師：萩尾 俊章（沖縄県立博物館学芸員）

○「展示コレクションを通してみた沖縄の歴史」

日時・場所：1993年7月22日（木）

講 師：萩尾 俊章（沖縄県立博物館学芸員）

<糸満市校区婦人会>

○「首里城について」

日時・場所：1993年6月27日（日）

講 師：前田 真之（沖縄県立博物館学芸員）

<国頭教育事務所管内初任者研修会>

○「グスクからみた沖縄の歴史」

講 師：當眞 嗣一（沖縄県立博物館教育普及課長）

<生涯学習振興課主催教育ボランティア養成講座>

○「学び続けるということ」

日時・場所：1993年7月13日（火）

講 師：具志堅俊一（JA 宜野座）

○「歴史展示の見方」

日時・場所：1993年7月20日（火）

講 師：萩尾 俊章（沖縄県立博物館学芸員）

○「いまなぜ博物館か」

日時・場所：1993年8月3日（火）

講 師：當眞 嗣一（沖縄県立博物館教育普及課長）

○「アメリカの博物館ボランティア」

日時・場所：1993年8月10日（火）

- 講 師：前田 真之（沖縄県立博物館学芸員）
- 「コレクションの収集と管理」
日時・場所：1993年8月17日（火）
講 師：與那嶺一子（沖縄県立博物館学芸員）
- 「わたしのつくる解説コース」
日時・場所：1993年8月24日（火）
講 師：瑞慶山 昇（沖縄県立博物館学芸員）
- 「解説体験学習」
日時・場所：1993年9月3日（火）
講 師：金城 透（沖縄県立博物館学芸員）



V 調査研究等の活動

〔概要〕

学芸員の調査研究活動は博物館活動の重要な柱をなすものである。調査研究には、館として統一テーマを設定して取り組む共同研究と、学芸員各自の専門分野における個別研究がある。共同研究として、本年度から2年計画で「総合調査・久米島」がスタートした。調査は、自然・考古・美術工芸・歴史・民俗の各分野に及び、第1年目にして予想以上の資料が発掘された。来年度は報告書を発刊する予定である。

また、個別研究の成果の一部は『沖縄県立博物館紀要・第20号』に個人論文・報告の形で発表した。

1 調査研究

大城 将保（主幹兼学芸課長）

- 総合調査・久米島（古文書）

期 間：1993年6月～

依頼機関：県立博物館

- 沖縄農地制度資料調査

期 間：1993年6月～

依頼機関：沖縄県農業会議

- 那覇市議会史資料調査

期 間：1993年8月～

依頼機関：那覇市議会史編集室

当真 嗣一（主幹兼教育普及課長）

- 久米島のグスク調査

期 間：1994年7月8日～10日

- 旧中城御殿の第二次発掘調査

期 間：1994年7月12日～9月2日

- 奄美大島のグスク調査

期 間：1994年10月14日～10月17日

- 「子どもの世界」資料調査

期 間：1994年12月8日～10日

- 久米島のグスク調査

期 間：1994年3月24日～26日

瀬名波 任（指導主事）

- 生涯教育推進事業「子どもの世界」の調査

期 間：1993年12月13日～12月16日

調査場所：石垣市・鳩間島・竹富島

成 果：教育普及書「子どもの世界」宮古・八重山編に収録刊行

- 久米島総合調査

期 間：1994年3月16日～3月18日

調査場所：久米島

成 果：1995年3月にその成果を報告書としてまとめる

瑞慶山 昇（指導主事）

○生涯教育推進事業「子どもの世界」の調査

期 間：1993年4月～1994年3月

依頼機関：沖縄県立博物館

成 果：教育普及書『子どもの世界』として刊行

○久米島総合調査（1次）

期 間：1993年4月～1994年3月

依頼機関：沖縄県立博物館

成 果：久米島の陶器・漆器についての資料収集

與那嶺一子（学芸員）

○生涯教育推進事業「子どもの世界」調査

期 間：1994年1月17日～1月19日

成 果：教育普及書『子どもの世界～宮古・八重山編～』として刊行

県立博物館紀要20号所収の「沖縄の産育儀礼における子どもの衣服と背守り」
にまとめる。

○琉球王朝文化遺産分布状況調査

期 間：1994年1月28日～29日

依頼機関：（財）海洋博覧会記念公園管理財団

○県内染織所在調査

期 間：1994年2月1日～3日

依頼機関：県教育庁文化課

○久米島総合調査

期 間：1994年3月28日～3月30日

成 果：1994年度に刊行予定

萩尾 俊章（学芸員）

○生涯教育推進事業「子どもの世界」の調査

期 間：1993年4月～1994年3月

依頼期間：沖縄県立博物館

成 果：教育普及書『子どもの世界～宮古・八重山編～』として刊行

○沖縄民俗芸能緊急調査

期 間：1993年4月～1994年3月

依頼機関：県教育庁文化課

成 果：『沖縄民俗芸能緊急調査報告書』として刊行

○泡盛浪漫中国調査

期 間：1993年8月7日～1993年8月24日

依頼機関：沖縄県酒造組合連合会

成 果：『泡盛浪漫』として刊行予定

○久米島総合調査

期 間：1994年1月20日～22日、3月22日～24日

依頼機関：沖縄県立博物館

成 果：『久米島総合調査』として1994年度に成果としてまとめられる。

久貝 勝盛（指導主事）

- トカラ諸島の鳥類調査

期 間：1993年8月14日～8月20日

- 伊良湖岬（愛知県）、佐多岬（鹿児島県）でのサンバの渡り調査

期 間：1993年10月8日～10月20日

- 生涯教育推進事業「子どもの世界」の調査

期 間：1993年4月～1994年3月

依頼機関：沖縄県立博物館

成 果：教育普及書「子どもの世界」として刊行

- 久米島総合調査

期 間：1993年～1994年

依頼機関：沖縄県立博物館

成 果：中間報告書の刊行

前田 真之（指導主事）

- 生涯教育推進事業「子どもの世界」の調査

期 間：1994年12月13日（月）～12月15日（水）

1月17日（月）～1月19日（水）

依頼機関：沖縄県立博物館

成 果：教育普及書「子どもの世界」として刊行

- 久米島総合調査（1年次）

期 間：1994年3月28日（月）～3月30日（木）

依頼期間：沖縄県立博物館

成 果：久米島の沖縄角力関係資料の収集ができた。

嵩原 建二（指導主事）

- 名護市動植物総合調査

期 間：平成5年4月21日～平成6年3月31日

依頼機関：名護市教育委員会

- 名護市文化財保護調査委員

期 間：平成4年4月1日～平成6年3月31日

依頼機関：名護市教育委員会

- 大宜味村動植物総合調査

期 間：平成5年4月1日～平成6年3月31日

依頼機関：大宜味村教育委員会

- 久米島総合調査

期 間：平成5年4月1日～平成6年3月31日

依頼機関：沖縄県立博物館

金城 透 (学芸員)

- 伊平屋・伊是名島のアシギなどの調査
期 間：1993年 6 月
- 多良間島の八月踊り (豊年祭) の調査
期 間：1993年 8 月 21 日～8 月 26 日
成 果：民俗資料パネルの作成
- 生涯教育推進事業「子どもの世界」の調査
期 間：1994年 1 月 24 日～1 月 31 日
場 所：多良間島・竹富島・西表島
成 果：教育普及書『子どもの世界』として刊行
- 久米島総合調査
期 間：1994年 3 月 28 日～3 月 30 日
成 果：久米島の民俗についての資料収集

2 著作論文

大城 将保

- 「アジアへ開ける歴史像」『月刊百科』8号 (平凡社)
- 「“琉球”か“沖縄”か」『日本通史・月報』4号 (岩波書店)
- 「悲劇の英才・牧志朝忠」『ブリーズ』9月号 (JR 九州)
- 「琉球・為朝伝説はなぜ生まれたか」『エッセイ・日本の歴史』(文芸春秋社)
- 「総動員体制の極限としての沖縄戦」『別冊歴史読本・女たちの戦い』(新人物往来社)
- 「琉球政府」他 5 項目『日本史辞典』(山川出版社)

當眞 嗣一

- 「沖縄の城跡」『考古学の世界』第 5 卷 ぎょうせい 1993年 6 月。
- 「戦跡考古学」『考古学の世界』第 5 卷 ぎょうせい 1993年 6 月。
- 「琉球王朝と首里城」『日本歴史館』小学館 1993年 12 月。
- 「旧中城-旧中城御殿石垣工事にかかる第 2 次発掘調査-」沖縄県立博物館 1994年 3 月。
- 「グスクの縄張りについて (下)」『沖縄県立博物館紀要』第 20 号 1994年 3 月。

與那嶺一子

- 「芭蕉布とは」『芭蕉布と平良敏子』沖縄県立博物館 1993年 7 月
- 「沖縄の産育儀礼における子どもの衣服と背守り」『沖縄県立博物館紀要』第 20 号 沖縄県立博物館 1994年 3 月

萩尾 俊章

- 「西原町棚原の弥勒踊り」『沖縄民俗芸能緊急調査報告書』1994年 3 月 沖縄県教育委員会
- 「第二代沖縄県令上杉茂憲関係資料について」『沖縄県立博物館紀要』第 20 号 1994年 3 月 沖縄県立博物館

久貝 勝盛

- 「Autumnal Migration and Wintering Behavior of the Gray-faced Buzzard-eagle *Butastur indicus* in the South West Islands of Japan」
国内・国外派遣研究員研究報告書第 2 号、沖縄県人材育成財団1993年 3 月

○「サンバの秋の渡りと集団渡来地の住民とのかかわり」 沖縄県立博物館紀要 20号 1993年
3月

○「宮古の自然と子どもたち」、子どもの世界—宮古、八重山編、沖縄県立博物館、1993年3月
前田 真之

○「インタープリテーションとボランティアガイド」『沖縄県立博物館紀要』20号 1994年3月
嵩原 建二

○「宜野湾市伊佐・大山・宇地泊周辺地域の鳥類と哺乳類」
沖縄県博物館紀要第20号 1994年3月31日

○「最近沖縄で目撃及び保護された興味深い鳥類」
沖縄県博物館紀要第20号 1994年3月31日

○「沖縄県博物館周辺地域におけるオリオオコウモリ *Pteropus dasymallus inoponatus*
の食性と餌植物の季節変化について（予報）」
博友第3号、1994年3月31日沖縄県博物館友の会

○「自分流バードウォッチングのすすめ」
なかゆくい16号、1994年3月 地方職員共済組合沖縄支部

金城 透

○「ふれあい散歩」（東風平・具志頭の文化財）『糸満高等学校紀要』第13号 1994年3月

3 講演等

大城 将保

○講座「沖縄戦」

期 間：1993年8月2日

依頼機関：島マス記念塾

○「琉球政府」

期 間：1994年2月7日

依頼機関：三月会

○平和講座「沖縄戦と援護法」

期 間：1994年2月14日

依頼機関：1フィート運動の会

○博物館講座「沖縄の歴史と文化」

期 間：1994年3月17日

依頼機関：石垣市教育委員会

當眞 嗣一

○「中城城跡の保存と活用」

期 日：1994年8月20日

依頼機関：中城村老人クラブ

○「沖縄人のルーツを探る」

期 日：1994年10月13日

依頼機関：沖縄県消費者センター

○「沖縄の歴史と文化」

期 日：1994年11月7日

依頼機関：ボーイスカウト沖縄県連盟

○「糸満市のグスク」

期 日：1994年11月12日

依頼機関：糸満市教育委員会

○「フルスト原遺跡の保存と整備」

期 日：1994年11月21日

依頼機関：石垣市教育委員会

○「中城城跡めぐり」

期 日：1994年11月28日

依頼機関：中城村教育委員会

○「琉球の大交易時代とグスク」

期 日：1994年12月3日

依頼機関：沖縄地区税関

○「沖縄のぐすく」

期 日：1994年12月19日

依頼機関：滋賀県立安土城考古博物館

○「浦添グスクと沖縄のグスク」

期 日：1995年1月31日

依頼機関：浦添市教育委員会

○「考古の世界」

期 日：1994年2月18日

依頼機関：西原町教育委員会

○「仲泊遺跡の保存と活用」

期 日：1995年2月28日

依頼機関：恩納村仲泊公民館

○「南部のグスク巡り」

期 日：1994年3月6日

依頼機関：西原町教育委員会

○「佐敷グスクと第一尚氏 - 第一尚氏シンポジウム」

期 日：1994年3月27日

依頼機関：佐敷町教育委員会

瀬名波 任

○親子星空教室

期 間：1993年5月8日・5月15日・6月5日・6月19日・7月3日・7月17日・8月7日・8月21日・9月4日・9月18日・10月2日・10月16日・11月6日・11月20日・12月4日・12月18日・1994年1月8日・1月22日・2月5日・2月19日

依頼機関：那覇市久茂地公民館

○星空観望会

期 間：1993年8月23日

依頼機関：浦添市内間児童館

○七夕観望会

期 間：1993年8月25日～26日

依頼機関：那覇市久茂地公民館

○星座観察会

期 間：1993年9月11日～12日

依頼機関：沖縄県立博物館友の会

○第33回 沖縄県児童生徒科学作品展示会審査

期 間：1993年10月29日

依頼機関：沖縄県高等学校文化連盟科学部

○第2回 理科I野外実習

期 間：1993年11月12日

依頼機関：県立浦添高等学校

○化石は古代のタイムマシーン

期 間：1994年3月12日～13日・3月19日～20日

依頼機関：那覇市若狭公民館

菟尾 俊章

○「ハーリーについて」(講演)

期 日：1993年7月9日

依頼機関：泊保育園

備 考：金城透専門員と共同、保育園保母対象

○沖縄の歴史と文化

期 日：1993年6月22日

依頼機関：沖縄総合事務局

備 考：中堅幹部研修会

○沖縄の歴史について

期 日：1993年7月14日

依頼機関：徳之島面縄中学校

備 考：糸満青年の家

○歴史展示室の見方

期 日：1993年7月20日

依頼機関：生涯学習振興課

備 考：教育ボランティア養成講座

○「昔の首里の町」(講演)

期 日：1993年11月1日

依頼機関：首里公民館ユイマール婦人学級

備 考：沖縄県立博物館講堂

○泡盛シンポジウム・アジアの酒ロードを探る

期 日：1993年11月6日

依頼機関：沖縄県酒造組合連合会

備 考：泡盛浪漫調査報告シンポジウム

○「歴史の道を歩く」（史跡めぐり）

期 日：1993年3月19日

依頼機関：沖縄県立博物館

備 考：弁ヶ嶽参詣道まーい

久貝 勝盛

○「Autumnal Migration of the Gray-faced Buzzard—eagle Butastur indicus and Its Conservation in the Southwest Islands of Japan」、太平洋学術会議、1993年6月28日～7月3日

○「自然界における野鳥の役割」、山田中学校、1993年9月17日

○「サンバの話」、第229回博物館文化講座、1993年9月18日

○「南西諸島におけるサンバの秋の渡り」、愛知県渥美自然の会、1993年10月10日

○「野鳥と緑と人間生活」、宮古広域圏事務組合、1993年10月22日

○「親子ふれあい教室—探鳥会」、浦添市立中央公民館、1993年12月11日

○「干潟や湿地にすむ野鳥の観察」、那覇教育事務所、1993年12月7日

○「みんなでバードウォッチングをしよう会」、城岳小学校、1993年12月23日

前田 真之

○「三つの名前のウチナンチュとアメリカ名のヤマトウンチュ」1993年4月21日

— 2人の異国通事の歩んだ道 —

依頼機関：琉球銀行

○「米国の博物館活動」1993年5月15日（土）

依頼機関：当博物館文化講座

○「国立アメリカ歴史博物館の活動とその特徴」1993年6月17日（木）

依頼機関：沖縄県博物館協会

○「首里城について」1993年6月27日（日）

糸満市糸満校区婦人会

○「アメリカの博物館ボランティア」1993年8月10日（火）

依頼機関：県教育庁生涯学習振興課

嵩原 建二

○野鳥講演会

期 日：平成5年4月22日

依頼機関：環境保健部自然保護課

場 所：沖縄市立北見小学校

○環境教育講演会

期 日：平成5年5月29日

依頼機関：沖縄市立北見小学校

場 所：沖縄市立北見小学校

○探鳥会講師

期 日：平成5年9月18日～19日

依頼機関：沖縄県立博物館友の会

場 所：国頭村与那

○探鳥会講師

期 日：平成5年11月13日

依頼機関：北谷町中央公民館

場 所：北谷町桑江

○探鳥会講師

期 日：平成5年11月14日

依頼機関：浦添小学校

場 所：宜野湾市宇地泊

○親子ふれあい教室探鳥会講師

期 日：平成5年12月1日

依頼機関：浦添中央公民館

場 所：那覇市末吉公園

○長寿学園おきなわ那覇地区講座探鳥会講師

期 日：平成5年12月7日

依頼機関：沖縄県教育庁那覇教育事務所

場 所：那覇市漫湖

○博物館文化講座「野鳥に親しむ」講師

期 日：平成5年12月18日

依頼機関：沖縄県立博物館

場 所：那覇市漫湖

○みんなでバードウォッチングしよう会探鳥会講師

期 日：平成5年12月23日

依頼機関：那覇市城岳小学校・同校PTA文化教養部

場 所：那覇市漫湖

○探鳥会講師

期 日：平成6年2月26日

依頼機関：沖縄県博物館の友の会

場 所：那覇市漫湖

○平成5年度自然と親しむ少年のつどい講師

期 日：平成6年2月17日

依頼機関：県立玉城少年自然の家

場 所：県立玉城少年自然の家構内

○繁多川子供会探鳥会講師

期 日：平成6年2月25日

依頼機関：繁多川子供会

場 所：那覇市漫湖・糸満市西崎

金城 透

○「ハーリーについて」(講演)

期 日：1993年7月9日

備 考：萩尾俊章学芸員と共同、泊保育園保母対象

VI 收藏資料

1 收藏資料現在高

平成6年3月31日現在

分類	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計	
自然史	地質	600	425	6	2	1,033	
	動物	1,064	18,130	470	13	19,677	21,575
	植物	15	850	0	0	865	
美術 工芸	絵画	70	517	5	0	592	
	書跡	504	856	48	3	1,411	
	彫刻	5	113	132	0	250	9,756
	陶磁器	442	3,162	249	492	4,345	
	漆器	239	200	162	0	601	
	染織	1,076	1,471	10	0	2,557	
歴史資料	504	4,741	334	74	5,653	5,653	
考古資料	8	1,572	975	15	2,570	2,570	
民俗資料	2,370	777	580	78	3,805	3,805	
総計	6,897	32,814	2,971	677	43,359	43,359	

2 平成5年度(1993)收藏資料

平成5年4月1日～平成6年3月31日

分類	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質				0	
	動物	77			77	77
	植物				0	
美術 工芸	絵画	1			1	
	書跡				0	
	彫刻		1		1	
	陶磁器		2		2	
	漆器		1		1	
	染織	4	21		25	
歴史資料	2	20			22	22
考古資料						
民俗資料		24			24	24
総計	84	69	0	0	153	53

3 平成5年度(1993)収蔵資料目録

寄贈の部

(平成5年4月1日～平成6年3月31日)

分類		品名	数量	寄贈者名	住所	
自然史	地質	化石含有石灰岩*	1	外原 淳	那覇市	
		シカ頭骨他*	3	友寄 敏子	那覇市	
美術 工芸	書跡	アダン筆(復元)*	15	比嘉 幸太郎	宜野湾市	
		亀甲名刺受(飾り物)	1	中嶋 仁	東京都	
	漆器	香炉	1	田名 芳子	那覇市	
		パナリ焼壺	1	宮城 信勇	那覇市	
	彫刻	橋の欄干の一部	1	渡嘉敷 眞好	那覇市	
		木綿黄色地牡丹文様紅型風呂敷他	2	橋本 初二郎	兵庫県	
	工芸	織	絹焦茶地紋付羽織他	2	池原 秀光	沖縄市
			麻紺地総緋着物(宮古上布)他	2	大嶺 チヨ	東京都
		織	芭蕉バンジョウ緋着物他	5	東恩納 道子	那覇市
			絹薄茶地流水に菊文様胴衣他	8	兼島 善吉	沖縄市
織		芭蕉木綿紺地綾着物他	2	平良 敏子	大宜味村	
		絹紺地経縞着物*	1	宮城 生慎	那覇市	
歴史資料	歴史資料	大東亜戦争従軍記章	1	上原 源松	沖縄市	
		日本渡航証明書他	4	大城 宗清	西原町	
		徴兵出頭状 嶺井政真宛 他	13	伊藤 勝一	読谷村	
		規格1号住宅模型(1/500)	1	石嶺 傳正	那覇市	
		奥間青年団旗	1	USAF MUSEUM	USA	
民俗資料	民俗資料	荒焼厨子甕(壺型)	2	志慶 眞元良	嘉手納町	
		陽石	1	平山 英徳	那覇市	
		ミシン	1	下地 千代	那覇市	
		風弾	1	亀島 章哲	埼玉県	
		蓑	2	金城 徳次郎	那覇市	
		上焼御殿型厨子甕(ツノ型)	2	喜屋武 盛光	中城村	
		海フゾー	1	上原 謙	糸満市	
		三線のチーガ(胴)	2	新垣 喜盛	沖縄市	
		シンメーナービ 他	2	池原 秀信	沖縄市	
		ユタンボ	1	大城 正勝	大里村	
		除草機	1	島村 キヨ	那覇市	
		木綿紺地洋服(ツーピース)他	4	東恩納 道子	那覇市	
		三線	1	仲里 祥光	那覇市	
		三線(銀製)	1	仲井間 宏	那覇市	
荒焼厨子甕(壺型)	1	USAF MUSEUM	USA			
ミソガメ	1	友寄 敏子	那覇市			

購入の部

分類		品名	数量
自然史	動物	ミナミイシガメ他	77
美術 工芸	絵画 染織	琉球風俗画帖	1
		芭蕉朱地経縞上衣他	4
歴史資料	歴史資料	聞得大君御殿型雲龍黄金簪(レプリカ)	1
		明孝宗より琉球国王尚真への勅書(レプリカ)	1

*印は学芸資料

4 所蔵国県指定文化財

国指定文化財（重要文化財）

平成6年3月31日現在

種別	名称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書典籍	おもろさうし	22冊	昭48. 6. 6	県立博物館	沖縄県
〃	混効験集	2冊	〃	〃	〃
工芸	銅鐘（旧首里城正殿鐘）	1口	昭53. 6. 15	県立博物館	沖縄県
〃	梵鐘（旧円覚寺殿前鐘）	} 3口	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧円覚寺殿中鐘）				
〃	梵鐘（旧円覚寺楼鐘）				

県指定文化財（有形文化財）

平成6年3月31日現在

種別	名称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書	1躯1枚	昭33. 3. 14	県立博物館	沖縄県
〃	世持橋勾欄羽目	1括	〃	〃	〃
絵画	絹本著色花鳥図（股元良筆）	1幅	昭54. 4. 9	県立博物館	沖縄県
〃	紙本著色雪中雉子の図（股元良筆）	〃	〃	〃	〃
〃	紙本墨画竹の図（股元良筆）	〃	昭57. 4. 1	〃	〃
〃	紙本著色奉使琉球図（朱雀年筆）	1巻	〃	〃	〃
工芸	三線江戸与那	1挺	昭33. 8. 15	県立博物館	沖縄県
〃	間得大君御殿雲龍黄金簪	1本	昭33. 3. 14	〃	〃
〃	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1台	昭31. 12. 14	〃	〃
〃	黒塗堆錦山水絵大文庫	〃	〃	〃	〃
〃	黒塗螺鈿文内金箔蓋付椀	3口	〃	〃	〃
〃	枝梅竹文赤絵椀	1口	昭54. 9. 3	〃	〃
〃	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃	〃
〃	色象嵌粟絵菊花皿	〃	〃	〃	〃
〃	色嵌色差面取抱瓶	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧霊応寺鐘）	1口	昭60. 6. 1	〃	〃
〃	梵鐘（旧普門禅寺鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧天竜精舎鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧天尊御鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧天妃宮鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧一品種権現鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	銅鐘残欠（旧波上宮朝鮮鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧大安禅寺鐘）	〃	昭63. 1. 12	〃	〃
〃	黒漆薔薇堆錦軸盆	1枚	平2. 2. 6	〃	〃
〃	黒漆山水楼閣人物螺鈿机	1脚	〃	〃	〃
〃	朱漆山水楼閣人物箔絵丸型東道盆	1合	〃	〃	〃
〃	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯	1口	〃	〃	〃
〃	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵角盆	1枚	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧永福寺鐘）	1口	〃	〃	〃
〃	三線盛嶋開鐘	1挺附胴	平6. 3. 15	〃	〃
典籍	評定所格護定本 中山世鑑	6冊	昭31. 12. 14	県立博物館	沖縄県
〃	〃 中山世譜	19冊	〃	〃	〃
書跡	程順則の書	1巻	昭42. 4. 11	県立博物館	沖縄県
〃	扁額「徳高」鄭元偉書	1架	平元. 9. 29	〃	〃
〃	扁額「凌雲」林麟焜書	1架	〃	〃	〃
古文書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	1幅	昭31. 12. 14	県立博物館	沖縄県
〃	明孝宗より琉球国中山王尚真への勅書	1巻	昭49. 11. 11	〃	〃
〃	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1幅	昭53. 4. 1	〃	〃
〃	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1幅	昭56. 3. 20	〃	〃
歴史資料	安国山樹花木之記碑	1基	平元. 9. 20	県立博物館	沖縄県

VII 刊行物

刊行物名	種類	部数	規格 (頁数)	内容
年間行事案内	定期	10,000	A 4 三折り	当年度の行事案内
年間ポスター	定期	1,000	B 2	当年度の行事案内
英文リーフレット	定期	10,000	A 4 三折り	当館の展示内容を紹介
新収蔵品展図録	定期	1,000	B 5 (4)	1992年度に寄贈・購入・収集等で収蔵された新収蔵品を紹介する企画展の図録
平成4年度沖縄県立博物館年報	定期	1,000	B 5 (71)	前年度の当館の活動状況や概要
特別展「沖縄の川と生きもの」図録	不定期	1,000	B 5 (66)	沖縄の河川生物と河川環境を紹介した特別展図録
企画展「芭蕉布と平良敏子」図録	不定期	1,000	A 4 (79)	芭蕉布の歴史と、平良敏子氏制作の芭蕉布を紹介した企画展の図録
企画展「刻まれた歴史—沖縄の石碑と拓本展」図録	不定期	1,000	A 4 (111)	沖縄各地に所在する石碑の拓本や当館所蔵の石碑等を解説した企画展図録
移動博物館リーフレット	不定期	1,000	B 5 (4)	伊良部町で開催された移動博で展示する展示物を紹介したリーフレット
移動博物館チラシ	不定期	2,000	B 5 (1)	伊良部町で開催された移動博の案内チラシ
沖縄県立博物館紀要 第20号	定期	1,000	B 5 (146)	学芸員の調査研究報告書
『旧中城御殿—旧中城御殿石垣工事にかかる第2次発掘調査—』	不定期	500	B 5 (84)	当館敷地の石垣工事にもなう発掘調査報告書
教育普及書「子どもの世界」宮古・八重山編	不定期	1,000	B 5 (148)	子どもの遊びや祭りなど子どもに関するさまざまな調査研究をまとめ、学校等で利用できるように平易にまとめた教育普及書
沖縄県立博物館新館建設基本計画	不定期	400	B 5 (51)	沖縄県立博物館の新館建設についての基本計画
平成5年度こども体験教室	不定期	1,000	B 5 (109)	篆刻・野鳥観察等児童生徒を対象とした体験学習のまとめ
沖縄県立博物館だより, No.34 No.35	定期	1,500	B 5 (4)	当館の行事等を紹介する広報誌

VIII その他の活動

1 資料貸出

- ①考古／歴史／美術工芸 7件 7点
期間：平成5年4月19日～平成5年6月14日 名称：開館記念特別展『遙かなる海の道』
主催：ミュージアム知覧 会場：ミュージアム知覧
- ②美術工芸資料：山元恵一作「魚」他 2件 2点
期間：平成5年8月18日～10月18日 名称：「山元恵一回顧展」
主催：那覇市民ギャラリー 会場：那覇市民ギャラリー
- ③自然史／考古／歴史／美術工芸／民俗 50件 61点
期間：平成5年9月20日～11月30日 名称：特別展「沖縄ものがたり」
主催：岡山市／山陽新聞社 会場：岡山城
- ④美術工芸：芭蕉黄地緋八十八他 2件 2点
期間：平成5年9月20日～12月19日 名称：「現代の染織—素材の技と美」
主催：福島県立美術館 会場：福島県立美術館
- ⑤歴史／美術工芸：おもろさうし他 27件 37点
期間：平成5年10月13日～12月10日 名称：「琉球王朝の美」
主催：彦根城博物館 会場：彦根城博物館
- ⑥歴史資料：奥間青年団旗 1点
期間：平成5年10月15日～10月18日 名称：敬老会
主催：国頭村奥間区 会場：奥間公民館
- ⑦自然史／歴史／民俗：写真パネル 10点
期間：平成5年10月31日～11月5日 名称：「文化財愛護事業展示会」
主催：沖縄県文化課 会場：県民ホール（県庁舎1階ロビー）
- ⑧美術工芸：琉球切手原画 10点
期間：平成5年11月27日～11月28日 名称：全琉切手展
主催：沖縄郵趣連盟 会場：那覇東郵便局
- ⑨美術工芸：程順則書「聖諭」 1点
期間：平成6年2月7日～平成7年3月31日 名称：常設展
主催：名護博物館 会場：名護博物館

⑩民俗資料：三線他 49点

期間：平成6年2月21日～4月4日

主催：石川市立歴史民俗資料館

名称：「沖縄の三線」

会場：石川市歴史民俗資料館

⑪美術工芸：古碑々字他 12件 16点

期間：平成6年2月22日～3月6日

主催：沖縄市立郷土博物館

名称：移動展「謝花雲石展」

会場：沖縄市立郷土博物館

⑫民俗資料：三線（銀製） 1点

期間：平成6年3月4日～3月4日

主催：琉球放送（株）

名称：ラジオ番組「サンシンの日」

会場：県立郷土劇場

⑬美術工芸：琉球切手原画 51点

期間：平成6年3月31日～5月2日

主催：沖縄郵政管理事務所

名称：琉球切手に見る沖縄の文化財

会場：OKICOMM（沖縄通信資料センター）

2 燻蒸処理

当博物館には、国・県指定文化財およびこれまでに購入・寄贈ならびに収集活動で得た文化財や資料が約4万点余りある。それらの資料は害虫その他の有害菌から防除し、資料の適切な保存を行うために、館内のくん蒸による害虫駆除を行なっている。

平成5年度は9月6日から9月9日までの期間をあてて実施した。地下・1階・2階の各収蔵庫のほかに、各展示室、首里城正殿模型、徳高篇額、湧田窯プレハブをメチルブロマイドによって燻蒸し、その他の事務室・講堂はスミチオン酸煙霧によって害虫駆除をおこなった。展示替えは特別展「沖縄の川と生きもの」の撤収作業と平行しておこなわれた。

3 沖縄県立博物館協議会

沖縄県立博物館協議会

第1回

日時 平成5年12月17日（金）10：30～13：00

場所 メルパルク郵便貯金会館

1. 報告事項

（ア）平成4年度沖縄県立博物館主要事業報告について

（イ）平成5年度沖縄県立博物館主要事業進捗状況について

（ウ）沖縄県立博物館新館建設について

2. 協議事項

わかりやすい展示解説について

第2回

日時 平成6年3月10日（木）11：00～13：00

場所 メルパルク郵便貯金会館

1. 会議事項

(ア) 平成6年度沖縄県立博物館予算案について

(イ) わかりやすい展示解説について

2. その他

3. 閉会

沖縄県立博物館協議会委員名簿

(平成6年6月1日～平成8年5月31日)

	氏名	所属	職名	住所	電話
学 識 経 験 者	翁長 自修	琉球大学教育学部(美術工芸)	教授	(職)〒903-01 西原町千原1	098-895-2221
				(自)〒901-22 宜野湾市大謝名787	098-897-5510
	新城 和治	琉球大学教育学部(自然史)	教授	(職)〒903-01 西原町千原1	098-895-2221
				(自)〒903 那覇市首里久場川町2-8-7	098-884-8865
	金城 正篤	琉球大学法文学部(歴史)	教授	(職)〒903-01 西原町千原1	098-895-2221
				(自)〒903 那覇市首里石嶺町3-293-6	098-887-1924
	嵩元 政秀	沖縄考古学会(考古)	会長	(職)〒903 那覇市首里大中町1-1	098-884-2243
				(自)〒903 那覇市首里鳥堀町5-22	098-887-6524
学 校 教 育 関 係 者	前山田 任	城西小学校	校長	(職)〒903 那覇市首里真和志町1-5	098-884-3542
				(自)〒902 那覇市国場851-2	098-855-2519
	運天 富三	今帰仁中学校	校長	(職)〒905-04 今帰仁村字天底113	098-056-2402
				(自)〒905 名護市字偽又492-53	098-052-2499
	安室 肇	南部工業高等学校	校長	(職)〒901-04 東風平町字富盛1338	098-998-2313
				(自)〒902 那覇市字真地218	098-889-1207
社 会 教 育 関 係 者	山内 晴子	沖縄県婦人連合会	理事	(職)〒902 那覇市大道172	098-884-5333
				(自)〒905-04 今帰仁村字仲尾次314	098-056-2828
	島袋 光尋	沖縄県PTA連合会	会長	(職)〒900 那覇市曙2-26-15	098-867-3582
				(自)〒902 那覇市安里56-5	098-861-3186
	新城 紀秀	沖縄県社会教育委員の会議	議長	(職)	
				(自)〒904-11 石川市石川2666-2	098-964-2415

4 沖縄県立博物館協会

平成5年度の総会及び研修会は、6月17日(木)～18日(金)に本部町博物館で行われた(例年は5月に行われるのだが、九博協の総会が5月にあったため延期されたものである)。参加者は29館(園)及び個人会員で90名であった。開会宣言・あいさつに続いて、長年に渡り沖博協の活動を続けてこられた玻名城泰雄氏(元沖博協副会長・元八重山博物館館長)に対し感謝状と記念品が贈呈された。議事としては平成4年度の会務報告・決算報告、平成5年～6年度の

役員改選、平成5年度の事業計画・予算計画等が審議された。

午後からは講演が行われ、まず前田真之氏（県立博物館指導主事）により、「米国の博物館活動」のテーマで最近の米国における活動の現状をスミソニアン博物館を中心に講演があった。日米の違い等興味引かれる内容であった。

次に上江洲均氏（文化庁伝統文化課主任調査官）によって「民俗資料の収集・分類・保管について」という講演があり、各館このテーマは大きな課題でありながら実践については暗中模索の現状なので、質問があいつぎ、各館おおいに参考になったと思われる。

夕方からは懇親会が行われ、各館の自己紹介等なごやかな中にお互いの情報交換を行った。

翌18日は「本部半島の文化財めぐり」で、本部町を渡久地健氏（本部町文化財保存調査委員）今帰仁村を仲原弘哲氏（今帰仁村歴史文化センター準備室長）に案内してもらい、時には宜保会長の解説も有り、楽しく有意義な研修であった。

秋の研修会は10月14日～15日、奄美大島の笠利町中央公民館を中心に行われた。奄美大島では平成元年以来二度目の研修である。14日の朝那覇空港を飛び立ち順調に奄美空港に着いた。宿へ向かう前に宇宿貝塚を見学した。16館37名の参加があり午後は講演で、最初は大野隼雄氏（笠利町教育委員）が、「奄美の自然」のテーマで行い、奄美と沖縄の自然の共通点・相違点を実物を示しながら、分かりやすく講演して頂いた。

次に「奄美のグスク」のテーマで當眞嗣一氏（県立博物館教育普及課長）が行い、沖縄や一般的な城、北海道のチャシとの比較、縄張図の重要性や縄張図から見た奄美のグスク、ヒヤー等の武器等多方面に渡る講演であった。

夜の懇親会では、加藤昭三笠利町歴史民俗資料館館長、藤山哲郎奄美博物館館長、有川幸雄町長、助役、収入役、教育長、社会教育課長等地元の方々の多数の参加の下、六調やトゥバルマーが飛び出したりして、なごやかに行われた。途中「アマミヤマシギ観察ツアー」を組んで夜の山道を走り回ったが、残念ながら観察できなかった。

15日の研修会は、自然の分野を昨日講演して頂いた大野隼雄氏、民俗等の分野を中山清美氏（笠利町歴史民俗資料館係長）に案内してもらい、植物園内の遺跡やハヤ遺跡、西郷隆盛の蝸居跡等を見学した。

飛行機の時間等の制約があり、一泊二日の日程では研修範囲も限られてくるので、日程の見直しも必要と思われる。



5 沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に参加協力し、さらに会員の教養を高めることと相互の親睦をはかる」ことを目的として1980年の1月に発足してから14年目をむかえた。その間会員も増加し、ミュージアムショップの経営も上々となって年々充実した活動を行ってきた。1993年度決算期における友の会会員は701名で、当初目標の600名を大きく上回った。

1994年5月16日(月)には1994年度の総会が本館講堂で開かれ、新役員や予算および事業計画等が審議・決定されて新たな活動が開始した。

1993年度に実施した活動の概要と事業内容は次のとおりである。

1. 事業

- (1) 海外研修旅行(5月28日～6月2日)
中国福建省の研修旅行を実施した。参加者：43人
- (2) 石川市歴史民俗資料館見学(6月26日)
新城紀秀氏の解説により資料館見学後、さらに同氏の案内で石川市内の史跡を見学した。参加者：34人
- (3) 首里城解説会(6月12日)
津波古聡氏の説明で首里城周辺の解説会を実施した。参加者：44人
- (4) 離島めぐり(7月10日～11日)
仲宗根将二氏・金城透氏の説明により、伊良部島・宮古島等の研修旅行を実施した。参加者：24人
- (5) グスクめぐり(7月18日)
中城・座喜味・勝連城跡を見学した。参加者：37人
- (6) 星座観察会(9月11日～12日)
瀬名波任氏の説明で、渡嘉敷島青年の家にて星の観察を行った。参加者：24人
- (7) 山原の自然と文化財めぐり(9月18日～19日)
石野裕子氏の説明で今帰仁村内の史跡見学と嵩原建二氏の説明で西銘岳の自然の観察を実施した。参加者：24人
- (8) 展示室解説会(9月25日)
瑞慶山昇・與那嶺一子両氏の説明で第3室(美術工芸の部)の解説会を実施した。参加者：17人
- (9) 県外研修旅行(10月8日～11日)
岩手県の研修旅行及び岩手県立博物館友の会との交流会を実施した。参加者：24人
- (10) 首里城周辺めぐり(11月6日)
宮里朝光氏の説明で「弁ヶ嶽・参道」の史跡の見学を実施した。参加者：37人
- (11) 文化キャラバン隊(11月20日～21日)
沖縄県立博物館が伊良部島で実施した移動博の手伝いを行った。参加者：4人
- (12) グスクめぐり(12月5日)
大里・玉城・南山城跡を見学した。参加者：35人

(13) 拓本教室 (12月19日)

阿波根直孝・屋部邦秀両氏の指導で拓本の採り方等について学んだ。

参加者：30人

(14) 首里城見学会 (1月29日)

真栄平房敬・盛本勲両氏の説明で首里城の見学会を実施した。

参加者：38人

(15) 探鳥会 (2月5日)

嵩原建二氏の説明で、漫湖公園において探鳥会を行った。

参加者：13人

2. 会員への情報提供事業

- 博物館事業及び催しものの案内状発送
- 友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送
- 博物館発行印刷物の複製販売サービス

3. 博物館への援助活動

図書 (20万円相当) を寄贈

4. 会誌 (博友)・会報 (赤い瓦) の発行

5. ミュージアムショップの経営

出版物・ミニ絵巻・絵はがき・委託図書・玩具・テレホンカード・フィルム・飲み物等の販売サービス

6. その他

- サークル活動：○歴史サークル ○グスクサークル ○自然サークル
- 他府県友の会との交流：2月25日浦添市美術館友の会主催の輪島漆芸美術館友の会との交流会に5名出席 (於：浦添)
- 展示施設の視察：10月20日～24日、池宮城事務局員が東京科学博物館及び彦根城博物館の売店・販売品の視察を行った。
- 総会及び懇親会 (1993年5月17日) 参加者：85人
- 新年会 (1994年1月13日) 参加者：121人

6 博物館実習

学芸員課程の履修科目として博物館実習があるが、本館では毎年数名～10名の規模で実習生を受け入れてきた。平成5年度は、下記の4名の実習生にたいし全職員総当たり体制で実施指導を行った。

1. 実習生

山内恵子 (鹿児島女子大学)、平良百合子 (鹿児島女子大学)、宮野美香 (武蔵大学)、真栄田優子 (広島文教女子大学)

2. 期間

7月28日 (水)～8月6日 (金) [10日間]

3. 実習科目と担当者

- (1) 博物館について (宜保館長)
- (2) 県立博物館の例規・組織・運営等について (濱比嘉副館長)
- (3) 県立博物館の施設について (山里庶務課長)
- (4) 常設展示について (大城学芸課長)

- (5) 特別展・企画展の企画から展示まで（當眞教育普及課長）
- (6) 資料受入・分類・登録・原簿記載の実際（與那嶺学芸員）
- (7) 自然史資料取扱実習（嵩原学芸員）
- (8) 民俗資料取扱実習（金城学芸員）
- (9) 美術工芸（漆器・陶器）資料取扱実習（瑞慶山学芸員）
- (10) 美術工芸（染織）取扱実習（與那嶺学芸員）
- (11) 歴史資料取扱いと保存科学実習（萩尾学芸員）
- (12) 展示作業実習（久貝・瀬名波・嵩原学芸員）
- (13) 教育普及活動実習（前田学芸員）
- (14) 新しい博物館づくりの理念と方法（大城学芸課長）

7 収蔵庫等改修工事

本事業は、既設漆器収蔵庫を恒湿恒温管理の行える収蔵施設へ改修するため、平成6年3月8日～平成6年3月31日まで施設整備事業として実施したものである。

工事概要 延べ床面積 前室16㎡ 収蔵室156㎡ 計170㎡
 壁面材料 杉板・入口扉 耐火扉（2H耐火）
 空調設備 空冷パッケージ方式（20,000cal/h）
 恒温恒湿制御方式 その他既設扉の改修等

8 旧中城御殿石垣工事にかかる第2次発掘調査

今年度は、平成4年度の第1次調査に引き続いて第2次発掘調査を実施した。発掘調査地区は旧中城御殿、現在の沖縄県立博物館敷地内北側部分の東西110メートル、南北2メートルで、発掘面積220平方メートルの範囲である。

平成5年6月1日付けで、文化財保護法第98条の2第1項の規定によって、埋蔵文化財発掘調査の通知を博物第129号で文化庁長官へ提出し、7月1日発掘を開始。同年9月2日に発掘を終了した。発掘終了後は出土遺物の整理および研究を行い、『旧中城御殿－旧中城御殿石垣工事にかかる第2次発掘調査－』報告書を3月に刊行した。

Ⅸ 新館建設事業

1 新館建設事業の概要

当館の現施設は老朽化がすすみ、収蔵資料の増加とともに収蔵庫が狭隘になっている。現状では、国際化・情報化・生涯学習時代に対応した博物館活動を十分に展開することが困難になっている。そこで、県教育委員会では、平成11年（1999）の開館を目標に新館建設事業を発足させ、平成2年度に新館建設検討委員会を設置して基本構想づくりに着手、平成3年3月、「沖縄県立博物館基本構想」の報告を得た。

続いて、平成3年度から新館建設委員会を設置して、新館建設基本計画を策定するための調査、検討を行い、この間に那覇新都心地区に20,000㎡の用地を確保、平成5年12月に「沖縄県立博物館新館建設基本計画」の報告書をまとめることができた。

基本計画によれば、新館は那覇新都心地区（天久）に延床面積18,000㎡（地上2階、地下1階）の規模で、21世紀型の総合博物館として建設され、平成11年の開館を予定している。

2 新館建設委員会

平成5年度は新館建設委員会が設置されて3年目の最終年度にあたり、年度内に「基本計画」をまとめる予定でスケジュールを組んだ。前年度に引き続き先進館視察（北海道地区）を実施するとともに、随時小委員会を開いて原案の作成と修正作業を行い、3回にわたって新館建設委員会を開催し、「新館建設基本計画」の報告書をまとめて教育長に報告した。

- 6月25日 第1回新館建設委員会、「新館建設基本計画案」の審議
- 7月15日 小委員会、原案作成作業。
- 7月29日 小委員会、同上。
- 8月3日 小委員会、同上。
- 8月4日 小委員会、同上。
- 8月24日～28日 新館建設委員会、北海道先進館視察
- 9月9日 第2回新館建設委員会
- 10月1日 小委員会、原案作成作業。
- 10月2日 小委員会、同上。
- 10月12日 小委員会、同上。
- 10月14日 第3回新館建設委員会、「基本計画案」の審議終了。
- 12月17日 新館建設委員会より教育長へ「沖縄県立博物館新館建設基本計画」を報告

X 日誌抄

(平成5年4月～平成6年3月)

平成5年

- 4月2日 英国東アングリア大学国際研究室長キースGポラード氏来館
- 4月16日 米国イリノイ大学教授ロナルド・トビ氏来館
作家陳舜臣氏御夫妻来館
- 4月21日 沖縄海員学校校長備瀬知康他2名来館
福岡高等裁判所長官他6名来館
九州地区県議会事務局長一行来館
九州地区監査委員会事務局一行来館
- 4月24日 日銀政策調整官中野和人御夫妻来館
環境政務次官合馬敬氏来館
- 4月25日 官房長官河野洋平氏来館
- 5月11日 企画展「新収藏品展」(～5/30)
- 5月13日 日赤大阪支部長岸昌氏来館
沖縄開発庁総務企画課調整官吉崎賢介氏他1名来館
- 5月18日 福島県原町市議会文教民生常任委員会御一行来館
- 5月27日 九州博物館協議会本県開催(於ホテルレインボー)
沖縄開発庁振興第四課課長補佐佐藤氏他1名来館
元民政府広報局長アール・リオスリフ氏他1名来館
埼玉県民部文化芸術推進室長他3名来館
- 6月3日 人事院事務総長他2名来館
- 6月10日 (財)日本蛇族学術研究所川村善治他1名来館
- 6月12日 ハワイ州教育長渡口御夫妻他3名来館
- 6月15日 国立教育会館館長西崎清久氏他2名来館
- 6月16日 ハワイ沖縄県人会スタディツアー一行来館
大蔵省主計局係長中村氏他1名来館
文部省施設助成課係長愛場優治氏他1名来館
- 6月17日 沖縄県博物館協会定期総会(於本部町立博物館)(～6/18)
- 6月25日 沖縄県立博物館新館建設委員委嘱状交付式(本庁会議室)
武蔵大学社会学科教授白水繁彦氏来館
- 6月30日 文部省教科調査官北俊夫氏他2名来館
- 7月6日 沖縄開発庁振興第四課長平井全氏他3名来館
企画展「芭蕉布と平良敏子」展オープン(～7/25)
- 7月7日 彦根城博物館次長安居吉二氏他2名来館
- 7月14日 自治省税務局理事官田中公之氏他2名来館
- 8月3日 特別展「沖縄の川といきもの」展オープン(～9/5)
- 8月10日 大蔵省主計局共済課長飯原一樹他1名来館
- 8月25日 富山県新湊市議会文教厚生委員会一行来館
- 9月9日 沖縄県立博物館新館建設委員会(本庁会議室)

- 9月21日 シリア考古総局モハメッドカトゥール氏来館
奈良国立文化財研究室長沢田正昭氏来館
- 9月28日 文部省教育財務企画室長高塩至氏他1名来館
嘉手納基地広報局長ポールウェルチェル氏骨壺寄贈のため来館
- 10月5日 企画展「沖縄の石碑と拓本」展オープン（～10/24）
- 10月6日 品川区教育委員会文化財保護審議会7名一行来館
- 10月14日 沖縄県立博物館新館建設委員会（本庁会議室）
沖縄県博物館協会秋期研修会（奄美大島）（～10/15）
- 11月16日 文部省施設助成課係長堀内賢司他2名来館
- 11月17日 山形県議会新目祝悦議員他9名来館
- 11月20日 移動博物館（伊良部町）オープン（～11/21）
- 11月30日 徳島市教育委員会教育長小林實他5名来館
- 12月2日 国立特殊教育総合研究所須賀信介他1名来館
- 12月5日 米国下院議員軍事委員長アバクロンビー氏他1名来館
- 12月17日 沖縄県立博物館新館建設基本計画会長から教育長へ報告（教育長室）
博物館協議会会議
タイ国アユタヤ歴史民俗資料館スマリー氏他1名来館
- 12月21日 中国社会科学院考古研究所教授安志敏他1名来館

平成6年

- 1月18日 江戸・東京博物館総務課長宮沢正行氏来館
- 1月27日 熊本県地方課課長補佐井公男氏他2名来館
- 1月31日 博物館消防訓練
- 2月2日 国立民族学博物館施設課進士悟他2名来館
- 2月15日 熊本市立博物館友の会32名来館
横浜市美術館学芸課村田宏他2名来館
- 2月16日 東京国立博物館東洋課長西岡康宏氏来館
- 2月23日 文化庁官房会計課総務係長清水功他2名来館
- 2月24日 彦根城博物館館長井伊正弘氏他2名来館
- 3月1日 文部省教科調査官吉川成夫氏他1名来館
大田区郷土博物館館長西岡秀雄氏他1名来館
- 3月4日 中国第一歴史档案館館長徐藝圃氏他3名来館
- 3月8日 フランス大使館参事官レフォル・フィリップ氏他1名来館
- 3月9日 奈良国立博物館長山本信吉氏他1名来館
米国スミソニアン協会教育・社会事業局長ジェームスC・アーリー氏他2名来館
- 3月10日 博物館協議会会議
- 3月14日 文化庁文化財調査官齊藤孝正氏他1名来館
- 3月16日 大蔵省資金第二課運用係長牧田不二夫氏他2名来館
国立教育会館教育情報課長関聖一氏他3名来館
自治省財政局主幹仲村栄次氏他3名来館
- 3月24日 元衆議院議員武部文氏他1名来館
- 3月26日 ペルー共和国大使有富ビクトル氏来館
- 3月27日 国立科学博物館普及課係長増田光尚氏来館

第5号様式(第18条関係)

博物館施設使用許可申請書	
平成 年 月 日	
沖縄県立博物館長 殿	
申請者氏名 _____ 印	
電 話 _____	
下記により貴館施設を使用したいので許可して下さるようお願い します。	
記	
1 使用者	
	団 体 名 _____ 及び
	代 表 者 名 _____ ④ 職 業 (_____)
	住 所 _____ 電 話 _____
2 使用目的	_____
3 使用する施設	1 ホール 2 臨時陳列室
4 使用する日時及び期間	
	自:平成 年 月 日 午 時 分 ()
	至:平成 年 月 日 午 時 分 日間
5 予定参加人員	_____ 人
6 その他必要な資料(プログラム等)	

許 可 書	
月 日付申請の () 使用の件、申請どおり許可します。	
平成 年 月 日	
沖縄県立博物館長	④

XI 関係法規抄録

○博物館法 (昭和26・12・1) 法律第285号

[最近改正] 平成3・4・2法律第25号

第1章 総則

(この法律の目的)

第1条 この法律は、社会教育法(昭和24年法律第207号)の精神に基き、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もって国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、美術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管(育成を含む。以下同じ。)し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究することを目的とする機関(社会教育法による公民館及び図書館法(昭和25年法律第118号)による図書館を除く。)のうち、地方公共団体、民法(明治29年法律第89号)第34条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第2章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第34条の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。

(博物館の事業)

第3条 博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

- 1 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
 - 2 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
 - 3 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
 - 4 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
 - 5 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
 - 6 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作製し、及び頒布すること。
 - 7 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
 - 8 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法(昭和25年法律第214号)の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する第一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
 - 9 他の博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
 - 10 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学校又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。
- 2 博物館は、その事業を行うに当っては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

(館長、学芸員その他の職員)

第4条 博物館に、館長を置く。

- 2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。

- 3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。
- 4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
- 5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
- 6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第5条 次の各号の一に該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- 1 学士の称号を有する者で、大学において文部省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの
 - 2 大学に二年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあったもの
 - 3 文部大臣が、文部省令で定めるところにより、前各号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めたる者
- 2 前項第2号の学芸員補の職には、博物館の事業に類する事業を行う施設における職で、学芸員補の職に相当する職又はこれと同等以上の職として文部大臣が指定するものを含むものとする。

(学芸員補の資格)

第6条 学校教育法(昭和22年法律第26号)第56条第1項の規定により大学に入学することのできる者は、学芸員補となる資格を有する。

第7条 削除

(設置及び運営上望ましい基準)

第8条 文部大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

第9条 削除

第2章 登録

(登録)

第10条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

(登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

- 1 設置者の名称及び私立博物館にあっては設置者の住所
 - 2 名称
 - 3 所在地
- 2 前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添附しなければならない。
- 1 公立博物館にあっては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面
 - 2 私立博物館にあっては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(登録要件の審査)

第12条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があった場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めるときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めるときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しな

ければならない。

- 1 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- 2 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- 3 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- 4 1年を通じて150日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があったとき、又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があったときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

- 2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に係る変更があったことを知ったときは、当該博物館に登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第14条 都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至ったものと認めるとき、又は虚偽の申請に基づいて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至った場合においては、その要件を欠くに至った日から2年間はこの限りでない。

- 2 都道府県の教育委員会は、前項の規定による登録の取消をするに当たっては、あらかじめ、当該博物館の設置者に対し、陳述する機会を与えなければならない。
- 3 都道府県の教育委員会は、第1項の規定により登録の取消をしたときは、当該博物館の設置者に対し、すみやかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第15条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

- 2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消しなければならない。

(規則への委任)

第16条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県の教育委員会の規則で定める。

(報告の業務)

第17条 都道府県の教育委員会は、文部大臣に対し、その求めに応じて、当該教育委員会において登録した博物館に関し必要な事項について報告しなければならない。

第3章 公立博物館

(設置)

第18条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所管)

第19条 公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

(博物館協議会)

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

- 2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条 博物館協議会の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物

館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

2 博物館協議会の委員については、社会教育法第15条第3項及び第4項の規定を準用する。

(入館料等)

第23条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

(博物館の補助)

第24条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第25条 削除

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

第26条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の1に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第1号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第3号及び第4号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

1 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があったとき。

2 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。

3 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。

4 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第4章 私立博物館

(都道府県の教育委員会との関係)

第27条 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

第28条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第5章 雑則

(博物館に相当する施設)

第29条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国が設置する施設にあっては文部大臣が、その他の施設にあたっては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第2項の規定を準用する。

附 則

(施行期日)

1 この法律は、公布の日から起算して3箇月を経過した日から施行する。

(経過規定)

2 第6条に規定する者には、旧中等学校令(昭和18年勅令第36号)、旧高等学校令又は旧青年学校令(昭和14年勅令第254号)の規定による中等学校、高等学校尋常科又は青年学校本科を卒業し、又は修了した者及び文部省令でこれらの者と同等以上の資格を有するものと定めた者を含むものとする。

○博物館法施行令 (昭和27年3月20日)
政令第47号

最近改正 昭和34年4月30日政令第157号

(政令で定める法人)

第1条 博物館法(以下「法」という。)第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

- 1 日本赤十字社
- 2 日本放送協会

(施設、設備に要する経費の範囲)

第2条 法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

- 1 施設費 施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費
- 2 設備費 博物館に備え付ける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費

附 則

この政令は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関設置条例 (昭和47年5月15日)
条例第24号 (抄)

最終改正 昭和63年3月31日条例第17号

(趣 旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条、図書館法(昭和25年法律第118号)第10号及び博物館法(昭和26年法律第285号)第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

氏 名	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

(博物館協議会)

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

- 2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。
- 3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則 (昭和47年5月15日) (抄)
教育委員会規則第2号

最終改正 平成元年6月30日教育委員会規則第7号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年沖縄県条例第24号)に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第4条 沖縄県立博物館(以下「博物館」という。)に次の課を置く。

庶務課

学芸課

教育普及課

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

(1) 予算、決算その他会計事務に関すること。

(2) 公印の管守に関すること。

(3) 施設設備の管理に関すること。

(4) 職員の服務及び福利厚生に関すること。

(5) 博物館協議会に関すること。

(6) 他課の所掌に属さない事務に関すること。

学芸課

(1) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。

(2) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。

(3) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。

(4) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。

教育普及課

(1) 博物館資料の利用相談に関すること。

(2) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。

(3) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則 (昭和47年5月15日)
教育委員会規則第13号

最終改正 平成5年2月16日教育委員会規則第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館(以下「博物館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(管理の責任)

第2条 館長は、博物館の施設、設備(備品を含む。以下同じ。)を管理し、その整備に努めなければならない。

(諸帳簿)

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならない。

(施設設備の亡失)

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

(警備防災の計画)

第5条 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度の始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

（当直）

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

（職員の服務等）

第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

（文書）

第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

（開館時間）

第9条 博物館の開始時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

（休館日）

第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 定期休館日 月曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）の規定する日（こどもの日及び文化の日を除く。）
- (3) 慰霊の日 6月23日
- (4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで
- (5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで
- (6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これを替えるものとする。

（寄贈及び寄託）

第11条 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申込書を（第2号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

（寄託資料の保管）

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

（寄託資料の返付）

第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

（経費の負担）

第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

（入館券の交付）

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

（入館料の免除）

第16条の2 沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年沖縄県条例第37号）第4条の規程により入館料を免除することができる場合は、次のとおりとする。

- (1) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として常設展を観覧する場合
 - (2) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒が学校週5日制の休業土曜日に常設展を観覧する場合
 - (3) 前各号に定めるもののほか、館長が特に必要と認めた場合
- 2 前項第1号又は第3号の規定により入館料の免除を受けようとする者は、あらかじめ入館料免除申請書(第4号様式)を館長に提出し、その承認を受けなければならない。
- (入館の禁止等)

第17条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- (1) 館内の秩序を乱すおそれがあると認める者
 - (2) めいてい、疾病等により他人に迷惑をかけるおそれがある者
 - (3) その他館長が適当でないと認める者
- (施設使用の許可等)

第18条 博物館施設(講堂、第2陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。)を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書(第5号様式)を提出し、館長の許可を受けなければならない。

- 2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合に博物館施設の使用を許可することができる。
- (1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの
 - (2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの
 - (3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの
 - (4) 社会教育上不適当であると認めるもの
- 3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。
- (原状回復の義務)

第19条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならない。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

(報告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

第22条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附則(平成元年3月31日教育委員会規則第4号)

この規則は、平成元年4月1日から施行する。

附則(平成4年8月28日教育委員会規則第7号)

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附則(平成5年2月16日教育委員会規則第1号)

この規則は、平成5年2月16日から施行する。

博物館資料寄贈申込書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申込者

住所

氏名



私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。

記

- 1 種別
- 2 作者名
- 3 作品名
- 4 製作年月日
- 5 附属品
- 6 資料の所在地
- 7 時価見積額
- 8 寄贈の理由

受諾書

上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第18号）第11条第3項の規定により返却されません。

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長



博物館資料寄託申込書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申込者

住所

氏名



私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託くださるよう申請します。

記

- 1 種別
 - 2 作者名
 - 3 作品名
 - 4 製作年月日
 - 5 附属品
 - 6 資料の所在地
 - 7 寄託期間
- 平成 年 月 日から
平成 年 月 日まで

第3号様式 (第11条関係)

博物館資料寄託承認書

平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館長

㊟

平成 年 月 日付け申請のあった博物館の寄託については、下記により受託します。

記

- 1 種別
- 2 作者名
- 3 作品名
- 4 製作年月日
- 5 附属品
- 6 受託期間

平成 年 月 日から
平成 年 月 日まで

7 備考

第4号様式 (第16条の2関係)

入館料免除申請書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者住所

氏名 ㊟

電話

下記の理由により博物館入館料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第37号）第16条の2第2項に基づき申請します。

記

- 1 入館者 団体名 _____
引率者名 _____
- 2 入館者数 _____人
- 3 入館日時 _____年 _____月 _____日 (曜日) _____時～ _____時
- 4 申請理由 _____

承認証
殿

年 月 日 付け申請の博物館の入館料免除の件、申請どおり承認します。

年 月 日 沖縄県立博物館長 ㊟

○沖縄県立博物館協議会規則 (昭和47年10月2日)
教育委員会規則第29号)

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年沖縄県条例第24号)第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

(委員)

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行う。

(会議)

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第7条 委員は、その職務を行うために必要とする費用の弁償を受けることができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関し必要な事項は、会長が協議会にはかかって定める。

附則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例 (昭和47年5月15日)
条例第37号)

最終改正 平成元年3月31日条例第22号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第228条の規程に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を閲覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を越えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の納期)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料金の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

別表第1 (博物館の入館料)

(第2条関係)

使用 者	入 館 料
一般	200円
大学生及び高校生	100円
中学生及び小学生	50円
団体 (20人以上)	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

別表第2 (体育施設の使用料) (第2条関係) 一省略

沖繩県立博物館年報 No.27

1994年7月25日 発行

編集・発行 沖 縄 県 立 博 物 館

住 所 〒903 那覇市首里大中町1-1

TEL : 098-884-2243

FAX : 098-886-4353

印 刷 (株)南 西 印 刷

住 所 〒903 那覇市首里石嶺町1-127

TEL : 098-884-4321

FAX : 098-884-4389

〔沖縄県立博物館行事案内・平成6年度〕

◆特別展

子どもの世界…………… 7月19日(火)～8月31日(水)

◆企画展

新収蔵品展…………… 5月10日(火)～5月29日(日)

◆移動博

第18回移動博物館～座間味村～…………… 11月19日(土)～11月20日(日)

◆博物館文化講座

沖縄の芸能…………… 4月16日(土)
 薬草の話(ウッチン)…………… 5月21日(土)
 ラオスの染織…………… 6月18日(土)
 トンボの話…………… 7月23日(土)
 子どもの世界…………… 8月6日(土)
 拓本教室…………… 9月17日(土)
 山原の海神祭(ウンガミ)…………… 10月15日(土)
 野鳥に親しむ…………… 11月19日(土)
 鉄器の話…………… 12月17日(土)
 歴史の道を歩く…………… 1月21日(土)
 東南アジアの漆文化…………… 2月18日(土)
 塩の文化…………… 3月18日(土)

◆夏休み歩く見る作る教室(定員あり)

スケッチをしよう…………… 8月7日(日)
 星の観察会…………… 8月27日(土)
 遊具をつくる…………… 8月28日(日)

◆子ども体験学習教室(定員あり)

昆虫標本をつくろう…………… 5月14日(土)／5月15日(日)／6月11日(土)
 漆喰でシーサーをつくろう…………… 7月9日(土)／8月13日(土)／8月14日(日)
 オリジナルの印をつくろう…………… 9月10日(土)／10月8日(土)／11月12日(土)
 首里の史跡めぐり…………… 12月10日(土)／1月14日(土)／2月12日(日)

◆博物館シアター

映画:老人と海…………… 4月24日(日)
 映画:紅型・宮古上布・壺屋の陶器…………… 5月8日(日)
 映画:黒島民俗誌…………… 6月5日(日)
 映画:アニメシリーズ…………… 7月31日(日)
 映画:アニメシリーズ…………… 8月7日(日)
 講演と映画:大いなる幻影…………… 9月25日(日)
 映画:オーケストラの少女…………… 10月2日(日)
 映画:舞踏会の手帖…………… 11月6日(日)
 コンサート:音のアトリエ…………… 12月4日(日)
 映画:アートオブコメディ…………… 1月8日(日)
 映画:キッド…………… 2月5日(日)
 映画:黄金狂時代…………… 3月5日(日)